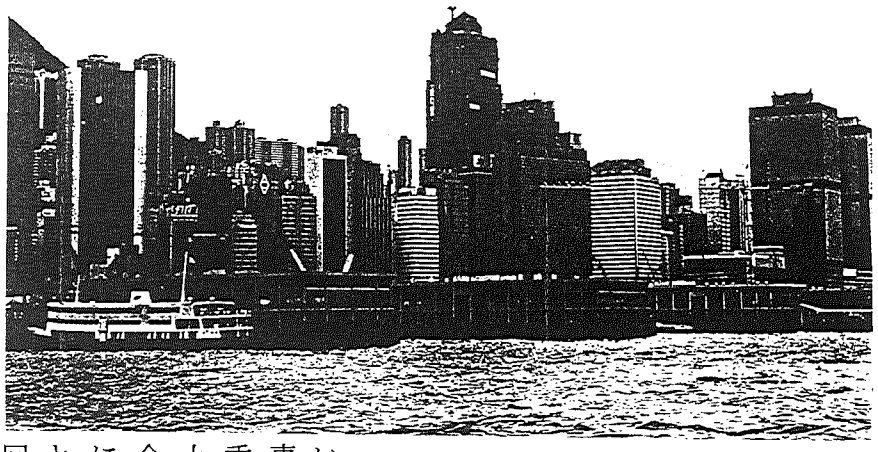
REF NEWS

'96.10.4
第100号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910　福井市中央 3-1-5 三谷ビル 204
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078



▶九龍島から香港島へ向かうフェリーより

REF第13次海外研修

香港より無事帰国！

この度、REF第十三次海外研修・香港都市調査団が無事その調査を終え、帰国。航空会社のハプニングにより日程が一日延び八月二十二日から二十六日までの研修となった。その成果を橋本栄治調査団長に報告願った。

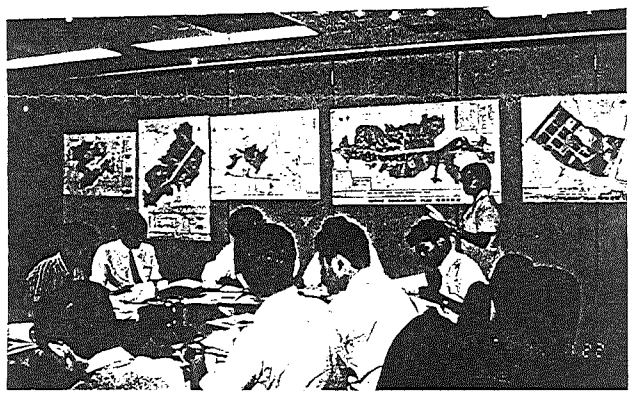
中国返還直前の香港を訪問して

調査団長　橋本　栄治

第十三次REF海外研修先の香港は、REFとしては十一年前の大調査団に続く二度目の歴訪となる。香港は来年の七月一日に中国に返還されるため、その直前の香港を直に見、肌で感じとるとともに、いずれ中国返還後に三度目のREF香港都市調査が実施された時のために、貴重な記録を残しておこうというが今回の調査目的である。

ごく限られた土地に六三〇万もの人口を抱える香港は、建築物の高層化を含めて、計画的効率的な土地利用を展開していかざるを得ない事情がある。今回、香港のこのような土地利用の実態と今後の課題を中心に調査を進めることとした。特に今回の調査では、福井県香港事務所の丹羽宏氏の協力を得て、香港政庁の都市計画部局の担当者から直に香港都市計画の現状を説明してもらう機会に恵まれた。土地利用に関する話題が三名の担当者から提供され、その話題に対する質疑応答が行われたのだが、予定時間を超過する活発な討論となった。

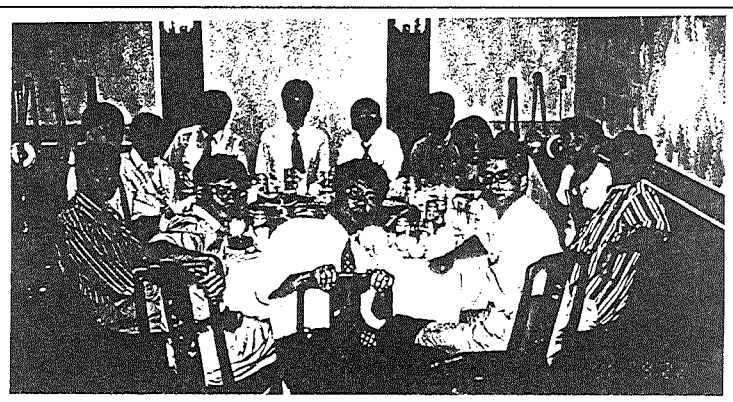
二日目は香港に隣接する中国・シンセンのめざましい発展の状況を視察。三日目は、香港政庁で得た情報等を踏まえ、「ニュータウン沙田を調査するグループ」「交通事情を調査するグループ」、そして「景観と環境の実態を調査するグループ」の三班に分かれて精力的な調査が展開された。私の参加した景観・環境調査班が歩いた歩数は半日で約一万三千歩。ニュータウン調査班はそれ以上の徒歩による調査を展開したという。



▲香港政庁で説明を受ける調査団

そして最終日。今回の海外研修は特に何事もなく終わりそうな安堵感を抱きつつ空港へ向かったのだが、副操縦士の急性盲腸炎で名古屋への飛行が不能となり、REF海外研修始まって以来の、日程が一日延びるという事態に至った。しかし、今回の若い調査メンバーにとっては動じることなど全くなく、むしろ急遽宿泊することとなったホテル近辺を散策するなどの機会に恵まれ、一日儲けたという印象が強かった。こうして香港到着以来、再び飛行機が離陸するまでに歩いた歩数は六万二千歩にのぼる。まさに香港にふさわしいエネルギッシュな調査活動になったように思う。

最後に、今回の調査では香港の都市計画の最前線の話題を生で聞けたことが何よりの収穫である。この企画にご協力をいただいた香港政庁の関係各位、そして福井県香港事務所の丹羽宏氏に、調査団を代表して心から感謝の意を表する次第である。



▲初日の夕食会にて

▲中国・シンセンの「中国民族文化村」

広域学習グループ 公開講座迫る！

今年度よりＲＥＦが、福井県生活学習館より広域学習グループの認定を受けた。（十五万円の補助金あり）ユー・アイ・ふくいでは、福井県の生涯学習推進月間にちなんで、『マナビ・フェスティバル』（１５日～１９日）を開催し、その関連行事の一環として「広域学習グループ交流大会」を企画。市民とのパートナーシップをめざすわがＲＥＦも当然の参加となった。

参加の内容としては、活動展に報告書のバックナンバーを展示し、さらに公開講座で２時間枠を確保。下記のとおり活動内容を市民にアピールすることになった。

研究事例では近年の成果から一般にも興味をひきやすいものピックアップした。スライド等を用いて分かりやすい講演が期待されるところだ。

平日の夕刻です。会員各位の多数のご参加よろしくお願いします。

1．日時；１０月１６日（水）
　　１８：００～２０：００
2．会場；ユー・アイ・ふくい
　　地下１階学習室
3．内容；①代表あいさつ　児玉副会長
　　②活動紹介　　橋本幹事長
　　③研究事例発表
　　「福井市における自転車利用の現状と将来」
　　「福井市域における街路植栽の実態」
　　「足羽川の河道位置の変遷に関する考察」
　　④海外研修事例発表
　　「ホーチミン都市調査報告」
　　⑤質疑応答

広域学習グループ交流大会

1996・10・15（火）→10・19（土）

会場　ユー・アイ ふくい（福井県生活学習館）

生涯学習のマスコット"マナビィ"

生涯学習推進月間に、広域学習グループの交流大会を実施します。活動成果の発表・公開講座・交流会をもとに学習グループ間の交流を促進し、生涯学習の一層の促進を図る

広域学習グループ 活動展

期日　10月15日（火）～10月19日（土）
時間　10:00~17:00
（但し、15日は11:00から・19日は16:00まで）

参加グループ

イトヨーズ	福井昆虫研究会 ✓
ツトムのニコニコ油絵教室	歴史に学ぶ会 ✓
美術友の会ビビル ✓	Ｗｉｎｇふくい ✓
白梅会 ✓	かなづ郷土誌・古文書研究会 ✓
ひいろの会 ✓	福井県発明くふう研究会 ✓
フォートＣ ✓	福井地域環境研究会 ✓
サークル・クレー ✓	県民会館川初教室 ✓
陶遊会 ✓	カウンセリング研究会「あのの」✓
更紗会 ✓	自然塾「きびたき自然の会」✓
陶芸サークル　陶遊	ニーハオ ✓
創作切り絵かすみ会 ✓	すずらん会
木彫講座修了生作品 ✓	

広域学習グループ 公開講座

期日●10月16日（水）
☆18：00~20：00
福井地域環境研究会
「福井の自然とまちづくり」
講師　橋本　栄治ほか
●10月17日（木）
☆19：00~20：45
福井県スペイン語研究会
「スペイン語初級会話」
講師　中橋エルサ氏
　　ギゼルモ・ヒメネス　氏
　　ジョバナ・アマドール氏
●10月19日（土）
☆10：00~11：30
自然塾「きびたき自然の会」
「山歩きのための野鳥教室」
講師　きびたき自然の会代表
　　林　武雄氏
☆13：30~15：00
阿牛会
「ボランティア福祥の国際比較」
講師　ケン・ジョセフ氏
☆14：00~17：00
カウンセリング研究会「あのの」
「対話」に学ぶ子育て学習会
講師　ヒューマンコミュニケーション研究所長
　　米沢　豊穂氏
☆15：15~17：00
福井県発明くふう研究会
「発明はだれでも出来る」
講師　山下　博氏
　　薮野　貞夫氏
　　清水　正臣氏

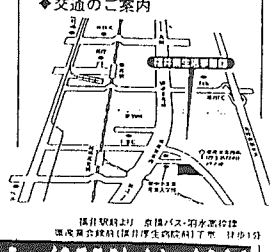
広域学習グループ 交流会

期日　10月18日（金）
◆13：30～開会
13：40～
学習グループ活動成果発表
○ボランティア朗読友の会
○フォークダンスひまわり
○自然塾「きびたき自然の会」
○カウンセリング研究会「あのの」
○ニーハオ

アトラクション
「白龍太鼓」
16：00～閉会

◆参加
広域学習グループ・県民どなたでもご自由に参加できます。

◆交通のご案内



主催　ユー・アイ ふくい/〒918 福井市下六条町14-1 TEL (0776) 41-4200

第一回 幹事会 開催

今期第一回目の幹事会が九月十一日、幹事十一名を招集しＲＥＦ会議室で開催された。

冒頭、橋本幹事長から今期の活動方針として「分科会の再生」と「市民とのパートナーシップ」を目指したい旨のあいさつ（前回既報）がされた。

特別な案件としては「広域学習グループ交流会」への参加内容が議論された。ＲＥＦの活動内容を広く市民にアピールするチャンスであり積極的に参加することに決定。具体的内容については別途打合せを行うこととなり、九月三十日にはその打合せが行われ、上記のとおり決定した。

その他の協議内容は次のとおり。

【談話会】
年四回開催予定。当面、ＩＲＥ・ＲＥＦの海外研修をテーマとする。その他、外部講師とも交渉中である。

【理論研】
今期は従来と指向を変え、ディベート式の理論研を開催したい。あるテーマを設定し、賛成・反対の立場で議論を深めたい。

【広報】
報告書（次回は十七号）に掲載する分科会の活動報告欄は活動日毎の内容を掲載する。分科会長にはその様式を徹底してもらいたい。

なお、次回幹事会は十一月六日の予定。

談話会のお知らせ

ＩＲＥの海外研修が、今年も７月２６日～８月２日にかけてカナダ（バンクーバー、カルガリー、バンフ）にて行われました。調査団の方々をゲストに下記のとおり談話会が開催されます。多数のご参加をお願いします。

記
テーマ；ＩＲＥ　カナダ都市調査
日　時；１０月３０日（水）
　　18:30～20:30
場　所；職員会館　２０１号室
ゲスト；本多　義明　氏
　　白井　秀和　氏
　　加藤　哲男　氏
　　近藤　幸次　氏

入退会のお知らせ

１，入会
〔正　会　員〕
　脇本　幹雄　氏　（県福井土木事務所）
２，退会
〔正　会　員〕
　長谷川　洋　氏　（建設省建築研究所）

編集後記

▼衆議院もついに解散・総選挙。十月二十日が投票日になりました。前回の参議院選の投票率が四四・五二％。選挙の結果はともあれ、活発な政策論争がなされ、有権者の過半数は投票所へ足を運ばせるような選挙戦を期待したいと思います。▼近畿自動車道敦賀線の都市計画法に基づく、計画案の縦覧（10/1~10/15）が始まりました。十一月には福井都市計画地方審議会にはかられる予定だそうですが、住民からの意見がどう反映されるのか見守りたいと思います▼このＲＥＦニュースも今回でなんと百号。今回は紙面の都合で無理でしたが、次回は企画を考えたいと思います。（Ｈ）

福井大学工学部環境設計工学科　交通
本多　義明　殿　○

【No.131】
NEWS　第101号
'97.1.30

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910 福井市中央 3-1-5 三谷ビル 204
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078

第三回幹事会報告

中間報告会は二月七日に決定

今期三回目の幹事会が一月十三日、幹事十一名を召集しREF会議室で開催された。今回の協議内容は次の通り。

第十七期中間発表会の実施計画案について

・日時：平成九年二月七日(金)　県民会館
　中間報告会
　　十八時～十九時二十分
　　司会：三田村氏、総評：堀江氏
　懇親会
　　十九時三十分～二十時四十分
　　司会：小嶋氏

・中間報告の改善について
　中間報告会を広く宣伝する
　　県庁6F記者控え室に投げ込む
　　他の研究会等に案内を送付する
　中間報告会のプレゼンテーションの改善
　　OHPを活用したわかりやすい報告

分科会活動報告

・交通分科会
　十二月八日に開催
　中間報告のテーマ「舟運の歴史」

・地盤分科会
　十二月二十日に開催
　中間報告のテーマ
　「福井県の海岸線の変遷」

・緑分科会
　十二月二日に開催
　中間報告は前期の研究を引き続き行う。
　今期は実際の管理者にアンケートを行う。

・邑都分科会
　十二月三日に開催
　中間報告のテーマ
　「海岸集落の形成過程に関する研究」

・地象分科会
　近々テーマを決定

・都市美分科会
　中間報告のテーマ「続・風景論」

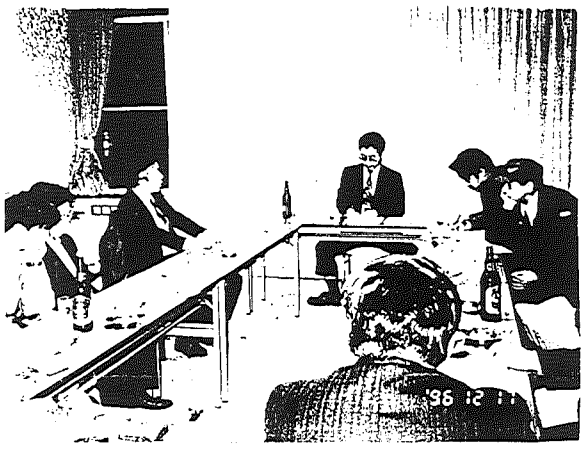
理論研、ディベート方式で復活！

今期第一回目の理論研が十二月十七日に開催された。今期の活動方針として「会員の論理的思考能力の向上を目的としてディベートを行う」こととなっており、その初回のテーマは「福井市において、福井駅周辺の中心部に他の商業核(SC等)よりも、商業機能を集約させる必要があるか。」であった。参加者が必要有に4人、必要無に6人に分かれての討論となった。

必要有の意見として、「まちづくりの観点や文化を育てるためにも商業機能を集約させる必要がある。」また、必要無の意見として、「必要最小限の商業機能は必要なものの、他は郊外で分担すればよい。」との意見が出された。その後、各グループで結論までの論理構成をし、最終発表を行った。

最後に判定者の加藤哲男氏が、「多くの意見は出たが、相手の意見に対する反論の仕方及びその着眼点をもっと検討する必要がある。着眼点としては、歴史性を盛り込んでもよかった。」と講評の後、判定は意見数(口数？)の多さで「必要有」の勝ちとなった。

参加したほとんどの人がディベート初体験ということで、議論のすり違いやディベートとして要領を得ない点もあったが、白熱した意見が交わされた。このような経験を積むことで、理論研の目的である論理的思考能力も向上するのではと思われた。



▲　理論研ディベート

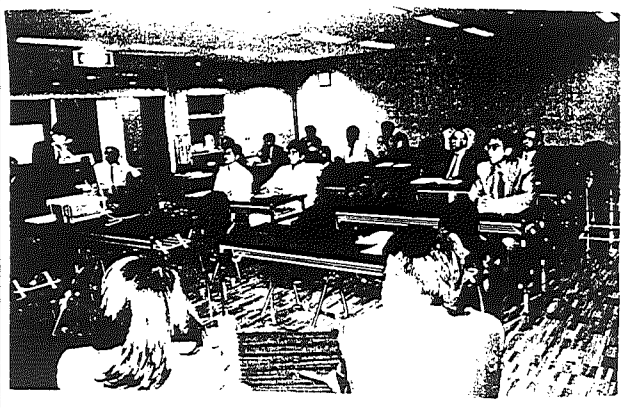
広域学習グループ公開講座開催される！

今年度よりREFが福井県生活学習館より広域学習グループの認定を受けたため同館主催の「マナビ・フェスティバル」関連行事として「広域学習グループ公開講座」をさる10月16日18時より同館にて開催した。

一般に対する広報不足と平日夜だったのため、参加者はREF関係者のみの20人となってしまった。

内容としては、児玉副会長による代表挨拶と橋本幹事長によるREFの全体紹介の後、交通分科会(豊田剛氏)緑分科会(酒井理恵氏)地盤分科会(乾博次氏)及びホーチミン都市調査報告(橋本幹事長)が行われた。

来期も講座開催が予定されるが、市民とのパートナーシップをめざすREFとしては是非一般参加型の企画を考えたいものである。



▲広域学習グループ公開講座の様子

談話会　「カナダ都市調査報告」

第四十七回談話会が去年の十月三十日(水)に県民会館にて開催された。参加者は、会員を中心に一般の方も含め二十二名。テーマは、昨年の七月二十六日から八月二日にかけて実施された(財)地域環境研究所(IRE)の「カナダ都市調査報告」で、ゲストは調査団長の本多REF会長、白井秀和氏、近藤幸次氏をお招きし、バンクーバーの交通事情や都市環境及び都市景観についてスライドを交えながら紹介していただいた。

バンクーバーの交通事情では、公共交通システムや「リバーシブルレーン」「カープールシステム」などの渋滞対策とアイスフィールドパークウェイの環境景観対策などについて、又、都市環境調査では、「緑」「水」「移動」をキーワードにバンクーバー、カルガリー、バンフにおける都市環境について、さらに、都市景観調査ではバンクーバーとビクトリアの景観並びに建物について詳しく紹介していただいた。

又、ビリティッシュ・コロンビア大学のバンシャ教授との会合やカルガリー市役所との「雪と交通に関する国際交流会」などの様子や成果についてのお話も興味深かった。最後に参加者のみなさんとの質疑応答が行われ、それぞれ興味のある問題について質問したり補足説明をしていただいたりして議論を深めることができた。

編集後記

▼しけの度に重油の漂着が続いています。深海に沈んだ船尾や座礁した船首からの新たな流出も危惧されます。

▼いつになったら重油漂着がなくなるのか、いつになったらきれいな海がもどるのか心配です。

▼私も重油回収作業や現地事務所の応援を経験しました。タンカー事故は拡散するまでの初期の対応が重要なことを痛感します。拡散すれば汚染区域が広域化するばかりでなく、回収が困難になります。

▼岩場に漂着すれば足場が悪いうえ石の間隙に重油が入り込んで回収困難、砂浜であれば重油の上に波で砂がついて回収困難な状況となっています。回収にあたっている地元の人やボランティアの皆さんには頭の下がる思いがします。

▼今後、環境対策や補償問題が議論になりますが、今回の事故が人災か天災かの議論とともに、非常時の初動体制作りも市民、自治体、国さらに国際的にも急務になると思います。(H)

REFニュース100号突破企画

100号の歴史を振り返る!!

期	号	年月日	主な内容
1	1	79. 12. 10	地域環境研究会発足、会長に富田氏、副会長に本多氏
	2	80. 2. 10	総会で大幅な役員改選か
	3	80. 3. 10	第一回理論研、テキストは「システム分析」
	4	80. 4. 10	REF守備範囲広がる
	5	80. 7. 10	REF総会、開催決まる
	6	80. 8. 10	分科会だより特集号（水分科会、交通分科会、住分科会）
	7	80. 9. 10	第１回総会、REF新体制発足
	8	80. 10. 10	第３回計画行政学会、福岡で開催。今野氏が発表
	9	81. 3. 10	第１回海外研修会報告（マニラ）
	10	81. 6. 10	理論研、テキストは「情報理論の基礎」
2	11	81. 7. 10	第２回総会、三役は続投
	12	81. 8. 25	談話会、マニラ研修報告
	13	81. 9. 15	理論研、テキストは「地球社会はどこへ行く」
	14	81. 10. 20	幹事会、YRPとの交歓会決定
	15	81. 11. 20	談話会、富田氏をゲストに「国土総合開発海外視察」報告
	16	81. 12. 25	YRP山梨地域計画研究会との交流会報告
	17	82. 2. 25	第４回土木計画学発表会、加藤氏が発表
	18	82. 3. 25	YRPが来県、佐佳枝亭で歓迎会
	19	82. 4. 30	新分科会「土地利用分科会」が承認される
	20	82. 5. 30	理論研、テキストは「環境計画学入門」
3	21	82. 6. 30	第３回総会、予算は約63万円
	22	82. 7. 30	幹事会、9名が新会員に
	23	82. 8. 30	交通分科会の越美北線の研究が「鉄道ジャーナル」に掲載される
	24	82. 10. 10	地方都市研究のための談話会が名古屋で開催
	25	82. 12. 20	談話会、栗田氏をゲストに「訪ソ青年の船」報告
	26	83. 3. 15	第３期REF中間報告会が開催
	27	83. 5. 27	第１回REF３号編集会報告
4	28	83. 7. 11	第４回総会、副幹事長と会友制度が設けられる
	29	83. 8. 13	シンガポール都市調査団無事帰国
	30	83. 11. 14	談話会、東工大教授中村氏をゲストに「風景学入門」
	31	84. 3. 21	談話会、「シンガポール都市調査」報告
	32	84. 5. 16	新分科会「地盤分科会」が福井氏によって設立
	33	84. 7. 19	談話会、今野氏をゲストに「中国西域の経済と物流」をテーマに
5	34	84. 9. 11	第５回総会、馬場氏が「都市と空間」をテーマに記念講演
	35	85. 1. 21	談話会、「バンコク都市調査報告」
	36	85. 3. 26	談話会、竹内伝史先生の「香港・広州の旅」
	37	85. 6. 19	ＩＲＥ設立記念シンポジウム開催、基調講演は「21世紀を考える」
6	38	85. 8. 30	第６回総会、予算が100万円を突破
	39	85. 11. 10	財政再建キャンペーン、会費納入率は60パーセント
	40	85. 12. 10	理論研の次テキストは「エコロジー入門」に決定
	41	86. 1. 25	談話会、「香港・中国都市調査」報告会
	42	86. 2. 20	幹事会、ゲストに折田氏（秋田地域問題研究会）
	43	86. 3. 24	今野福井医科大教授退官、REF顧問は継続
	44	86. 4. 22	ピーター・アギュー氏をゲストに談話会
	45	86. 5. 27	理論研再会、テーマは「都市供給処理論」「日本的自我」
	46	86. 7. 7	理論研、テーマは「都市災害の科学」
7	47	86. 8. 26	第７回総会、予算は95万から114万へ
	48	86. 10. 18	第７期活動方針「活動マンネリ化の打破」
	49	86. 12. 15	REFパンフを発行
	50	87. 2. 12	静岡環境文化研究会と交流
	51	87. 4. 3	会費の長期滞納者が問題化
	52	87. 5. 22	理論研、テーマは「文明と政治体制」
8	53	87. 8. 11	第８回総会、幹事長は児玉氏が再任
	54	87. 9. 26	第８期活動方針、「地域へのアピールと地道な活動」
	55	87. 11. 21	談話会、上海都市調査報告
	56	88. 2. 10	第８期中間報告会
	57	88. 4. 9	丹南地域環境研究会設立される
	58	88. 6. 6	理論研、「知価革命」を教材におこなわれる
9	59	88. 9. 1	第９回総会、新幹事長に加藤氏
	60	88. 10. 4	REFニュース、イメージチェンジに着手
	61	88. 11. 25	談話会、福井講師をゲストに「近年の異色海外見聞録」
	62	88. 12. 16	幹事会、10周年記念イベントについて
	63	89. 1. 31	談話会、「マレーシア都市調査団報告会」
	64	89. 3. 25	第９期中間報告会、交通分科会に助成金
	65	89. 5. 31	理論研、テキストは「術語集」
	66	89. 7. 20	幹事会、10周年記念行事のゲストに野坂昭如氏
10	67	89. 9. 21	第10回総会、予算規模は約180万円
	68	89. 10. 19	岐阜で「都市と農村」研究会との交流会
	69	90. 1. 8	10周年記念講演会開催、ゲストに野坂昭如氏ら
	70	90. 3. 20	第10期中間報告会開催、最優秀賞は緑分科会
	71	90. 5. 11	理論研、「自由と憲法」について
11	72	90. 8. 29	第11回総会、幹事長は加藤氏が再任
	73	90. 10. 16	幹事会、自主研究グループとしての活動の充実化を打ち出す
	74	90. 12. 20	地域国際シンポジウム実行委員決定
	75	91. 1. 30	地域国際交流シンポジウム開催される
	76	91. 4. 24	談話会、福原助教授をゲストにイスラエルの報告
	77	91. 6. 17	REF第11号の詳細が決定
12	78	91. 8. 27	第12回総会、幹事長は加藤氏が４期目に
	79	91. 10. 10	幹事会、今期は「開かれたREF活動の推進」をテーマに
	80	91. 12. 10	「都市の交通改善」シンポジウム開催
	81	92. 2. 17	第12期中間報告会、優秀研究は邑都分科会と地象分科会に
	82	82. 5. 19	海外研修は「北京・天津」に決定
13	83	92. 9. 19	第13回総会、新幹事長に前川氏、活動方針は「内なるREFの充実」
	84	92. 11. 24	YRP（山梨地域計画研究会）との交流会
	85	93. 3. 3	談話会「福井県の土木事業紹介」
	86	93. 6. 25	白井教授をゲストに談話会
14	87	93. 10. 13	第14回総会、前川氏が幹事長留任
	88	93. 12. 22	土木学会・土木計画学研究発表会が福井で開催
	89	94. 3. 10	滋賀まちづくり研究所の例会に参加
	90	94. 6. 9	談話会「中国浙江省視察報告」
15	91	94. 7. 25	第15回総会、新幹事長に橋本氏、活動方針は「分科会活動の再生」
	92	94. 10. 7	第11次海外研修報告（マニラ）
	93	94. 12. 22	REF15周年行事「市民と行政そしてまちづくり」開催
	94	95. 3. 31	第15期中間報告会、奨励賞は地盤分科会
16	95	95. 7. 25	第16回総会、三役は続投・予算規模は約200万円
	96	95. 9. 28	ホーチミンより無事帰国（第12次海外研修報告）
	97	95. 12. 20	「IRE10周年記念シンポジウム」開催、今野氏が基調講演
	98	96. 4. 15	第16期中間報告会、奨励賞は交通分科会
17	99	96. 8. 1	第17回総会、予算規模は約250万円
	100	96. 10. 4	中国返還前の香港を訪問して（第13次海外研修報告）

このニュースも歴代役員会員のおかげをもちまして前回で100号を迎えることができました。その間、原稿も手書きからワープロになるなど体裁も変わりました。今回、100号突破を記念して初代のニュース担当であった加藤哲男氏（現参与）に100号の歴史を振り返ってもらいました。

今後も会員会友（180名）の通信紙としてREF情報を発信していきたいと思います。

創刊号（加藤氏編集）

第25号（中田氏編集）

「REF NEWS」100号を振り返って

加藤 哲男

昭和54年12月10日に創刊したREFニュースも前号で100号を迎えましたが、初代広報担当の私の後を引き継いで戴き、この17年間にわたり編集発行に携わってこられた方々に敬意を表します。この間、広報担当として稲葉、杉原、沢崎、酒井、下川、中村、長谷川の諸氏、中田、浅井、佐藤、舟川の諸君、広報支援として斎藤、中川、一守、山納、槙田、岩崎、英、川本、本、寺内、杉江の諸君の尽力により、REF活動が支えられてきたことを明記しておきたいと思います。別掲の一覧表をご覧戴きますと、年度により発行回数が異なるものの、その時代時代のREFの置かれた状況が手に取るように判ります。手許のニュースを見てみますと、創刊から28号までは手書きですが、12号から担当した中田君の作品はどれも見事な出来栄えで、ワープロ編集への移行まで会員の目を楽しませてくれました。総会や談話会の報告は、会合に出席できなかった会員への情報提供手段として、十分機能したと思います。また、最近では、コピー機の性能の向上により、写真が数多く掲載されるようになり、紙面を判りやすく楽しいものにしようとする姿勢が窺われます。ところで、最近の記事の内容の充実に満足しながらも、何か寂しいものを感じます。というのは、会員への情報伝達媒体として役割が発揮されている反面、会員相互の意見交換、近況報告の部分が若干弱いように思えるのです。過去の紙面を紐解いてみますと、分科会活動報告がやる気を喚起させ、会員の結婚、配偶者の出産、転居、転職等のお知らせ欄が、会員の心を和ませたのではないかと考えられます。30人足らずで発足したREFが 200人に迫ろうとする大所帯になってきている中で、今後更に地域社会の発展に寄与していくためには、広報担当に対する会員諸氏のご支援とご協力が何よりも必要だと思います。

入会のお知らせ

〈正会員〉 漆崎　忍（飛行船α号）　希望分科会：都市美分科会
　　三好美貴子（飛行船α号）　希望分科会：都市美分科会
〈学生会員〉 平井　勝治（福井大学）
　　宇佐見誠史（福井大学）
　　林　暁帆（福井大学）　希望分科会：邑都分科会
　　室田有美子（福井大学）　希望分科会：交通分科会

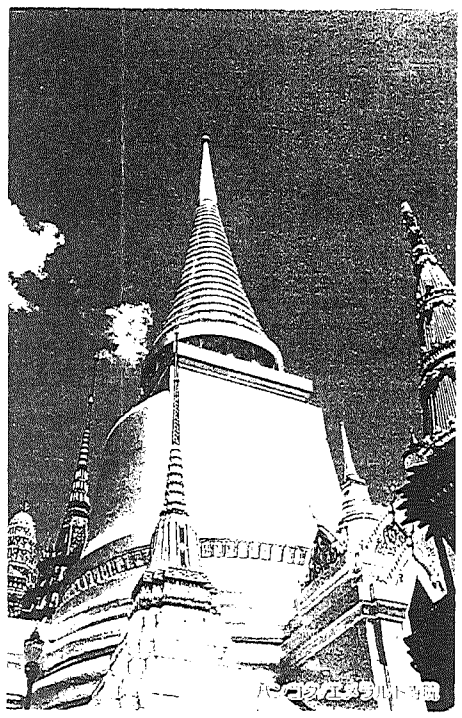
REF NEWS

'97.6.18
第 102 号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910 福井市中央 3-1-5 三谷ビル 204
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078

第 17 期海外研修はバンコクに決定!!

本年度の海外研修は、先に行ったアンケートの結果で比較的希望者も多く、過去に実績のあるタイ・バンコクに決定した。バンコクでの調査内容や交流方法については、参加者で勉強会を開催し、意見の集約を行い決定することになった。日程、費用等は以下のとおり。なお、担当幹事の話では、去年より補助金が増え、約 20 万円程度を参加者に補助する予定だそうだ。



日程(案)　平成 9 年 8 月 21 日(木)から平成 9 年 8 月 25 日(月)
4 泊 5 日　料金　139,000 円
21 日(木)　午前　名古屋空港発
午後　バンコク着
22 日(金)　午前　バンコク市内交流先訪問
午後　バンコク市内班別行動(調査)
23 日(土)　バンコク市内班別行動(調査)
24 日(日)　午前　バンコク市内班別行動(調査)
午後　バンコク発
25 日(月)　午前　名古屋空港着
申し込み期限　平成 9 年 6 月 30 日
問い合わせ　研修担当幹事：県庁都市計画課　三田村　Tel　0776-21-1111(内 3454)　Fax　0776-22-8164

第 5 回幹事会報告

第 18 回総会は 7 月 12 日に決定

今期 5 回目の幹事会が 5 月 14 日、幹事 11 名を召集し REF 会議室で開催された。

今回の主な協議内容は次の通り。

第 17 期分科会報告会、第 18 回総会の実施計画案について(総務担当)

日時:平成 9 年 7 月 12 日（土）
福井県職員会館 301 号室、302 号室

・第 17 期分科会報告会
13 時 30 分～15 時時 30 分
・第十八回総会
15 時 40 分～16 時 50 分
・懇親会
17 時～

REF17 号の編集について(広報担当)
編集委員の選出
B5 版で 400 部作成
原稿締め切りは 6 月 23 日
発行は総会時

分科会・談話会・理論研の活動報告
第 17 期海外研修について

談話会報告

談話会幹事　堂本　博滋

第 48 回　「REF 海外(香港)研修報告」
ゲスト：橋本　栄治氏　中村　毅氏
木ノ下康一氏　豊田　剛氏

2 月 28 日に参加者 22 名で県職員会館にて行った。報告は団長の橋本氏の挨拶と研修概要報告の後に、「ニュータウン調査班」「景観・環境調査班」「交通調査班」の各調査班別に報告していただいた。ニュータウン調査班は、香港の抱える人口問題にポイントを置いて、香港のニュータウン計画の現状と今後について、景観・環境調査班は、香港の象徴的景観要素である高層ビル群と斜面都市の紹介と問題点について、交通調査班は香港の交通事情および建設中の新空港を中心としたインフラ整備状況について、それぞれ詳しく報告していただいた。

第 49 回　「浙江省都市基盤整備交流視察調査報告」
ゲスト：本多　義明氏　橋本　栄治氏
李　偉国氏　宇佐美誠史氏

4 月 25 日に参加者 20 名で県職員会館にて行った。今回は、11 月に行われた福井県と福井大学との合同調査(交流)についてお話を伺った。まず、福井大学グループの本多団長の調査概要説明の後、宇佐美氏より上海調査について、又、李氏より地元の杭州市の紹介、さらに橋本氏より杭州市、寧波市、紹興市での調査と地元の担当省庁との交流の様子や成果を報告していただいた。

第五回幹事会報告

第十七期分科会中間報告会

きたるべく第十七期報告会に先立ち、中間報告会(二月七日)から各分科会の研究内容を紹介する。なお、奨励賞は邑都分科会(発表者：川本氏)が受賞した。

(邑都)

「海岸集落の形成過程と地域性について」

越前海岸地域の集落を対象として、これら海岸地域の地域性に迫るべく集落形成に及ぼす要因またその形成過程について研究する。

(交通)

「舟運の研究」

衰退傾向にある海上および内水面での舟運にスポットを当てる。災害時等の輸送機関として今後の舟運の在り方について研究する。

(都市美)

「続・風景論に向けて」

造園術における配置の問題を扱う。ここに配置とは建物における間取りに対応する言葉である。中間報告ではカトルメール・ド・カンシーの「造園術における配置」論が紹介された。

(緑)

「街路樹計画マニュアル」

現場に即したマニュアルにすべく、県内の各行政主体において街路樹の計画・設計・施工・管理にいたる課題等についてのアンケート調査を行う。

(地盤)

「福井の海岸線の変遷について」

砂浜海岸の海岸線の変化を把握する。対象は三里浜とし、福井臨海の開発により侵食・堆砂の傾向、さらに生態系への影響を研究する

(地象)

「福井における防災都市づくり」

改訂された地域防災計画がどのようにして地域住民に周知徹底され、本当に行政と一体となって実行性のあるものになっているか検討し、特に災害時の情報管理のあり方を検討する。

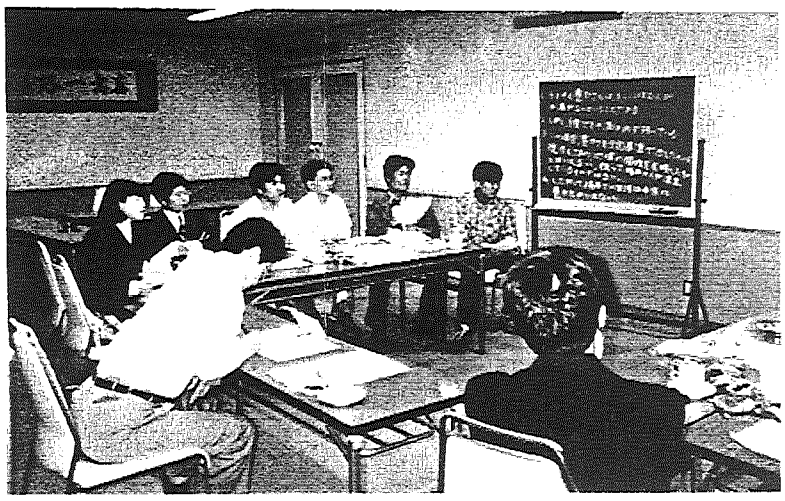
理論研報告

理論研幹事　酒井　俊雄

第２回　「景観を条例により規制する必要があるか」

3 月 13 日に参加者 15 名で県職員会館で行った。「あるあるチーム」のリーダー川本義海氏、「ないないチーム」のリーダー長谷川義則氏がそれぞれの意見を述べ、その後、互いのチーム同士の討論では、「条例等による財産権の制限の限界」「福井市をはじめ全国の景観条例の制定状況」「憲法、法律、条例の関係」「既存の法律での適用の限界」などの論点について活発な議論が展開された。

今回は、リーダーをはじめ事前にかなり準備をしていた人が多く、また、2回目と言うこともあり、議論のぶつかり合いが随所に見られた。最後の判定は、「討論内容」「論理構成(黒板の文章)」の判定項目ともわずかであったが「あるあるチーム」のほうが点数が高かった。



第３回　「福井県での生活は本当に豊かであるといえるか」

5 月 27 日に参加者 11 名で県職員会館にて、「あるあるチーム」のリーダーを三田村佳紀氏、「ないないチーム」のリーダーを川本義海氏、判定者を加藤哲男氏で行った。

今回は、「豊かさ」の解釈が大きな論点となった。つまり、物質面の豊かさは最低限必要であるが、それだけで「豊か」とはいえない。精神面の豊かさも「豊かさ」の大きな要素だが、それは、人、地域によってもさまざまであり、一概に「豊か」であるともないともいえない。この２つの要素の「豊かさ」が今回の議論の論点(分岐点)となった。また、判定者の加藤氏の巧みな進行もあり、皆真剣に白熱した議論となった。

(財)第百生命フレンドシップ財団

「生涯学習活動助成」に応募

第百生命フレンドシップ財団(東京都調布市、理事長：小林啓次郎)では、生涯学習を振興するため、「生涯学習活動助成」の平成９年度の募集を行っています。地域の学習団体が、日ごろの成果を地域社会に発表することにより、未来の「コミュニティ文化」形成に貢献できると考えられ、今後の成長が期待できる“草の根団体”が対象と言うことで、REF にもその資格があると考え、これに応募いたしました。助成金額は１団体 20 万円で 150 団体に贈られます。助成金の贈呈時期は平成９年７月上旬～８月上旬の予定です。

入会のお知らせ

【正会員】

伊戸　康清　　朝日土木事務所

編集後記

▼今期のＲＥＦ活動もいよいよ大詰めの時期です。各分科会においては、原稿〆切（六月二十三日）にむけてラストスパートがかかっていると思います。あとしばらくです。がんばりましょう。

▼過日の幹事会では報告書のＡ４版化が議論されました。慎重論が多くその結論は総会持ち越しになりました。皆さんのご意見をお待ちしております。

▼昨年の総会は約五十名でした。年に一度親睦を深めるチャンスです。多くのご参加をお願いします。（Ｈ）

REF NEWS

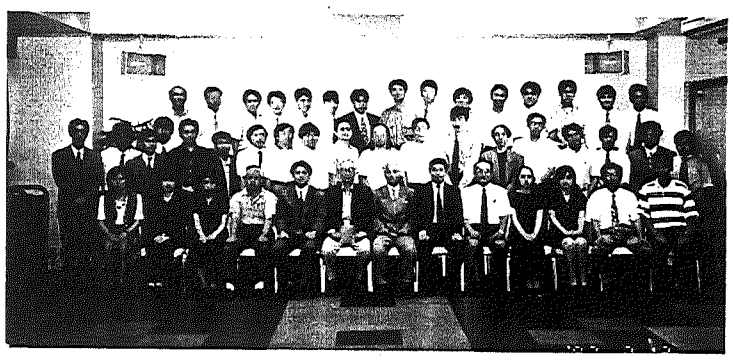
'97.8.5
第103号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910　福井市中央 3-1-5 三谷ビル 204
(財)地域環境研究所内 **福井地域環境研究会**
TEL. (0776)27-0078

第18回総会開催

新幹事長に稲葉氏・新副幹事長に野村氏

第十八期　役員・予算案議決！



▲　全員による記念撮影

第十八回総会が七月十二日福井県職員会館で開催され、十八期目の予算案、役員案等が審議・議決された。

総会には、会員会友あわせて約五十名が参加し、盛大に行われた。

総会の次第として、まず、本多会長挨拶、富田顧問挨拶に続き、野村総務担当幹事より新会員の報告があり、橋本幹事長により第十七期活動報告の後、酒井氏を議長に選出し、議事に移った。

議決事項としては、まず、第十七期の決算報告から始まり、新任十二人を含む第十八期の役員案が審議され、新たに研修会支援を設置することと共に可決された。

さらに、新財務担当幹事より第十八期の予算案の説明があり、この件に関しても原案どおり可決されることとなった。

最後に、新幹事長の決意表明や新分科会幹事等から第十八期における活動方針の説明があった。

その後、会場を隣に移し、新幹事長である稲葉氏の挨拶に引き続き、丹原氏の乾杯で懇親会が始められた。懇親会では、衆議院議員の笹木氏、県会議員の坂川氏、新入会員があいさつを行い、会員相互の交流を深め、楽しい歓談の時が過ぎた。中でも、最近恒例となりつつある「ご指名スピーチ（今スピーチを行っている方が次の方を指名する）」により、かなり場が盛り上がっていた。

懇親会終了後、いつものように一部会員は片町に流出し深夜遅くまで熱い議論が交わされていた。

【第十八期　役員】　○は新任役員

会　長　本多義明（福井大学工学部教授）
副会長　児玉　忠（福井県建設技術所総括研究員）
幹事長　○稲葉隆夫（福井県武生土木事務所主任）
副幹事長　加藤式男（㈱帝国コンサルタント道路部長）
（地域交流）　○野村吉範（福井県河川課主査）

幹事
（総務）　○長谷川義則（福井県建設技術公社主査）
（財務）　龍崎俊和（福井市総務部工事検査課技師）
（広報）　○槙田　強（福井県農林水産部漁港課技師）
（談話会）　○乾　博次（中央測量設計㈱係長）
（論文理論研）　酒井俊雄（福井県福井土木事務所主査）
（研修会）　三田村佳紀（福井県都市計画課技師）
（総務支援）　滝波栄治（福井県監理課技師）
（財務支援）　菅原桂一郎（福井県今立土木事務所技師）
（広報支援）　○宇佐美誠史（福井大学大学院工学研究科）
（談話会支援）　○平井勝治（福井大学大学院工学研究科）
（理論研支援）　寺内義典（福井大学大学院工学研究科）
（研修会支援）　○伊戸康清（福井県朝日土木事務所技師）

分科会長
（交通）　豊田　剛（石川工業高等専門学校助手）
（土地利用）　武井幸久（福井工業専門学校助教授）
（緑）　○中村　毅（福井県朝日土木事務所主任）
（地盤）　○那須勝幸（㈱岡本鐵工所）
（邑都）　川本義海（福井大学大学院工学研究科）
（地象）　○橋本栄治（福井県福井土木事務所主任）
（都市美）　○北島勝三（㈱飛行船α号代表取締役）

参与　加藤哲男（福井県大野土木事務所主任）
監査　近藤幸次（福井県道路建設課主任）
顧問　栗田幸雄（福井県知事）
今野修平（大阪産業大学教授）
富田伊太郎（㈱サンワコン顧問）
冨永六郎（㈱コミュニティー企画研究所所長）

第17期　決算報告《H. 8. 4. 1～H. 9. 3. 31》

収入の部

費目 目	費目 節	決算 (A)
会費		1,738,750
	正会員	1,251,000
	学生会員	33,250
	会友	232,500
	中間報告	111,000
	総会	111,000
繰入金		332,710
預金利子		239
寄付金その他		10,000
補助金		150,000
会費未納金		49,250
計		2,280,949

支出の部

費目 目	費目 節	決算 (B)
事業費		896,208
	分科会活動助成金	300,000
	理論研究会助成金	55,499
	談話会助成金	63,378
	研修会助成金	268,400
	機関誌印刷費	178,412
	広域活動助成金	30,519
会議費		377,526
	中間報告会費	161,196
	総会費	178,360
	幹事会費	37,970
事務費		171,978
	会議室管理費	30,000
	通信連絡費	124,301
	旅費	15,000
	雑費	2,677
予備費		0
積立金		250,000
計		1,695,712

繰越金 ＝ (A)-(B) ＝ 585,237 円

第18期　予算《H. 9. 4. 1～H. 10. 3. 31》

収入の部

費目 目	費目 節	予算
会費		1,871,000
	正会員	1,332,000
	学生会員	33,000
	会友	306,000
	中間報告	100,000
	総会	100,000
繰入金		585,237
預金利子		63
寄付金その他		1,700
補助金		150,000
会費未納金		164,000
計		2,772,000

支出の部

費目 目	費目 節	予算
事業費		1,600,000
	分科会活動助成金	420,000
	理論研究会助成金	80,000
	談話会助成金	150,000
	研修会助成金	600,000
	機関誌印刷費	200,000
	広域活動助成金	150,000
会議費		470,000
	中間報告会費	180,000
	総会費	250,000
	幹事会費	40,000
事務費		210,000
	会議室管理費	30,000
	通信連絡費	130,000
	旅費	20,000
	雑費	30,000
予備費		142,000
積立金		350,000
計		2,772,000

分科会報告会

第十七期研究成果を発表

総会に先だち、第十七期分科会報告会が豊田剛氏の司会で開催された。今年も発表十分、討論者によるコメントが三分、会場からの質疑応答が五分という時間割で、六分科会から研究成果が報告された。

今期の研究テーマは、偶然ではあるものの海（海岸）をテーマとしたものが6分科会中4分科会を占め、比較的統一感の高い報告会になった。

主な質疑応答時には、

「地形、気象、人文等の研究カテゴリをもっと有機的に結びつけて海岸の変遷のメカニズムを把握したらどうか」

「（アンケート時の）重油流出における関心の高さはどうだったか。」

「検討エリアや漁港施設による影響を考慮すべきでは」

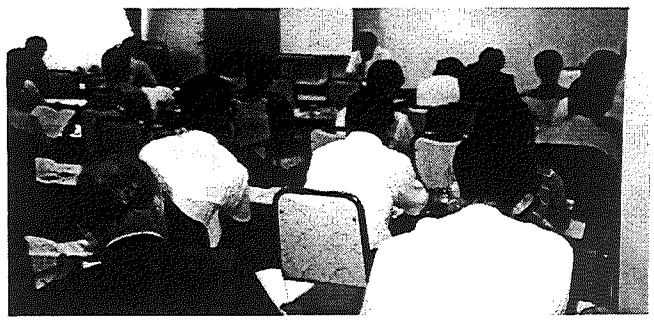
「国道による改良の影響を研究してはどうか」

「インターネットなどの弱点の克服はどう考えるか」

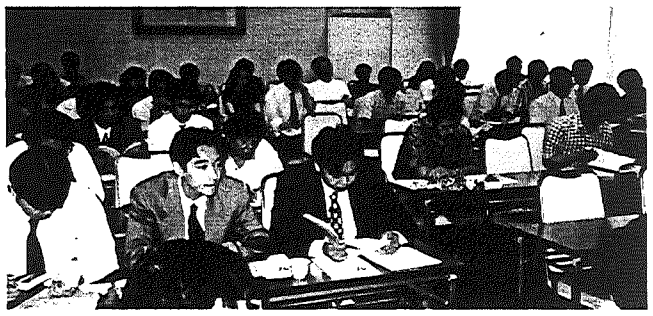
等多くの議論や指摘があった。

塚本氏による総括的な講評では、「アンケートの手法など、若く新しい感覚で行ってほしい」との提言があった。

今年も閉会は定刻を三十分過ぎるほどの盛会であった。



▲　発表の様子



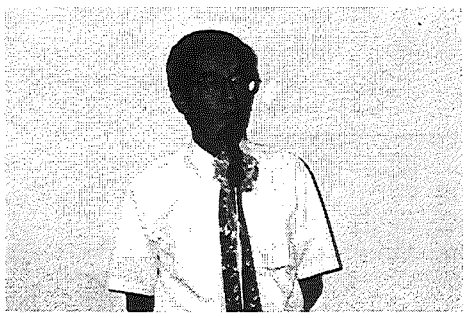
▲　熱心に聞き入るフロア

稲葉新幹事長、決意表明！

REF第十八期目にあたって

この度の総会におきまして、橋本前幹事長の後を引き継いで今期の幹事長に選出されました。今度ともREF活動がより一層活発に行われ、さらに発展していきますようできる限りの努力をしていきたいと考えておりますので会員の皆様全員のご協力をお願いいたします。

さて、REFは昭和五十四年十一月に設立されて以来、今年で十八年目を迎えております。この間、歴代の会長、副会長、幹事長を始め多くの諸先輩のリーダーシップのもと、会員の数も大きく増加し、REF活動は着実に発展してまいりました。しかし、十八年という長い年月の間、REFという全く自主的な研究グループが活動を続けてきた中で、いくつかの課題も浮き彫りにされてきていると思います。どのような組織であっても、その活動期間が長期になればなるほどマンネリズムが進行し、活動が停滞しがちになることは宿命と言っていいかもしれません。実際REFでも、分科会活動の停滞や、海外研修参加者の激減など解決すべき問題が顕在化しております。これらの状況を克服し、次の新たなステップへとREFを発展させていくためには、ベテランの方々の後押しの中、若い人の自由奔放な発想が不可欠であると考えています。女性会員を含めた若い方々の積極的で自由な提案を期待しています。



▲　決意表明する稲葉新幹事長

入退会・移動のお知らせ

1.総数

	H9.2	H9.7	増減
正会員	113	116	+3
学生会員	16	10	−6
会友	51	54	+3
計	180	180	±0

2.入会

【正会員】

伊戸　康晴　（福井県朝日土木事務所）

小林　健一　（福井県大野土木事務所）

【学生会員】

坂井　美文　（福井大学）

3.退会

【正会員】

上道　悟　（福井市）

黒川　満代　（共栄火災海上保険）

4.異動

【学生会員→正会員】

木村　晃規　（福井県）

豊田　剛　（石川高専）

室田有美子　（サンワコン）

宮本由美子　（福井新聞）

【学生会員→会友】

大井麻理子　（都市設計連合）

高田　弘幸　（大日本コンサルタント）

鈴木　康弘　（愛知県）

編集後記

☆以前、広報支援としてREFニュースに関わって、編集後記を書いていたのがまだM1だった7年前。まさか再びこの欄を書くことになろうとは思っていませんでした。☆というわけで、今期から広報は槙田が担当させていただくことになりました。支援は福大M1の宇佐美が担当となりました。まだ二人とも担当幹事としては不慣れではありますが、精一杯がんばりたいと思っています。ニュースへの意見要望、話題提供などございましたら是非とも広報担当までご一報ください。☆REFも今期で十八期。いよいよ二十周年に向けての準備期間として実りの多い1年であることを期待したいと思います。（M）

REF NEWS

'97.11.25
第104号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910 福井市中央 3-1-5 三谷ビル 204
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078

第十八期中間発表会 平成十年二月六日に決定

第二回幹事会報告

今期第二回目の幹事会が十一月五日、幹事十六名を召集しREF会議室で開催された。

特別な案件としては、「広域学習グループ交流会」の参加報告（一面に関連記事）や、第十八期中間発表会の開催日程、場所の打ち合わせが行われ、平成十年二月六日（金）に県民会館三〇五、三〇六会議室で開催されることが内定した。

さらに、活動交流について、「清水港客船研究会」との交流が検討され、先方の打ち合わせの結果をもって、交流のタイミングを決定した旨の報告があった。

また、現在REF会議室がある三谷ビルが建て直されるのに伴って、十二月二十五日より繊協ビル五階へ一時的に移転することが報告された。

各分科会幹事からは、活動状況の報告もされた。

その他の協議事項については以下のとおり。

［談話会］先月の二十八日にIREの海外研修（オセアニア）をテーマに第一回談話会を開催。次回は一月頃に開催予定。

［理論研］広域学習グループ活動の一環としてディベート形式の理論研を開催。次回は十二月から一月にかけて開催予定。議題は未定。

［海外研修］研修先はバンコクで、開催期日については一～二月の連休に絡めて設定したい。積極的な参加を希望する。

分科会活動報告について

現時点での活動状況は次の通り。

【交通】十月一七日に分科会を開き、今期のテーマを「交差点の研究」に決定。次回分科会は十一月二十八日に開催予定。

【緑】十一月十七日に分科会を開催予定。今期のテーマは引き続き「街路樹の研究」を予定している。十二月中に第二回も予定している。

【地盤】十一月十九日に分科会を開催予定。今期テーマは未定。

【邑都】十一月中旬に分科会を開催予定。今期テーマは未定。

【地象】十一月中旬に分科会を開催予定。今期テーマは福井震災五十周年にちなんで「防災計画」のまとめになる予定。

【都市美】十一月中に分科会を開催予定。今期テーマは未定。分科会員を募集中。

【土地利用】今期テーマは未定。分科会員を募集中。

広域学習グループ 公開講座参加報告

昨年度よりREFが、福井県学習館より広域学習グループの認定を受けているが、ユー・アイ・福井では福井県の生涯学習推進月間にちなんで『マナビフェスタ97』が、十月の十日から十二日にかけて開催された。

その関連行事の一環として「広域学習グループ交流大会」が開催され、わがREFも今年で二度目の参加となった。

参加の内容としては、活動展に活動内容をわかりやすく展示したパネルを出展。さらに公開講座では、理論研による公開ディベートが行われた。裏面に、その詳細を報告します。

ユー・アイ　ふくい　フェスティバル

都市美分科会メンバー募集

我が分科会は、ここ数年、白井先生を中心（先生一人に頑張っていただき）にヨーロッパの各都市の歴史的背景から、都市の「美」について考えてきましたが、昨年より庭園が都市の中の憩いの場であると共に、都市の魅力を美的側面からも担う物であることを発表してまいりました。

このことは、ルネッサンス時代におけるピクチャーレス・ガーデン（風景庭園）からはじまり、中流階級のコテヂ・ガーデン、庶民のキッチン・ガーデン（ハーブ・ガーデン）へと変化を告げてきています。この歴史的背景の中から現在のガーデニングが生まれて、現在は大変な人気となっています。

今、福井の魅力を出すための一つのアイテムとして、我が分科会が取り組んできた、建築や庭園の歴史的基礎知識を基に、福井における都市景観の美しさ、魅力を考えてみませんか？　このことを考えることこそ、住みやすい県「日本一の福井」に住む我々の役割ではないでしょうか？

これから、一緒に考えていく仲間を募集いたしておりますので是非参加してください。

（我々だけでは、非常に淋しいので助けてくださいお願いします。）

談話会報告

第50回「IRE オセアニア都市調査報告」

ゲスト：本多義明氏　福井大学工学部
加藤哲男氏　福井県大野土木事務所
野田敏秀氏　福井県立大学生物資源学部

記念すべき第50回談話会が、10月28日に参加者18名で県職員会館にて行なわれた。

そこでは、団長である本多氏より挨拶並びに調査概要、オーストラリア・ニュージーランドの概要等についての報告があり、加藤氏よりオークランドの地域計画史などの説明、野田氏よりシドニーを中心に緑環境（特に街路樹）についての説明がなされた。

地域環境研究会公開講座

公開講座は平成９年１０月１０日の午後１時３０分より「ユー・アイ・福井」１０１研修室において開催された。

内容は、昨年から理論研で採用されているディベート形式による討論の形式をとって行われた。議題は「福井県での生活は本当に豊かであるといえるか」というテーマで行われ、どちらの議論が優位であったかを判定する判定者として加藤哲男氏、「豊かである」チーム（以下あるあるチーム）のリーダー酒井俊雄氏以下６名、「豊かではない」チーム（以下ないないチーム）のリーダー橋本栄治氏以下５名（含む一般参加者１人）でディベートされることとなった。

まず、各チーム内でテーマに沿った議論を行い、チームとしての論理構成をして、お互いにその結論を発表することから始まった。以下に各チームの理論構成及び結論を記載する。

まず、各チーム内でテーマに沿った議論を行い、チームとしての論理構成をして、お互いにその結論を発表することから始まった。以下に各チームの理論構成及び結論を記載する。

あるあるチームの論理

- 生活における豊かさは日常の衣食住全般において、量・質両面の満ち足りて不足のない状態であり、物質的評価の指標として質的評価を加味して評価判断される。
- 物質的評価の量的豊かさについては新国民生活指標のデータが用いられ、本県は「十分に豊か」であるといえる。
- 質的豊かさにおいても「１人当たり」で評価できる標準レベルまでは前項の評価で十分と考えられる。自然環境を除く質の高いものは、日常的に使われるのではなく、大都市のみで可能なものが多い。しかし大都市では交通渋滞など弊害が多いことから、日常生活するところに置かず、近くにあって必要なとき求めるのがよい。
- 福井は４０万都市の金沢に近く、また、大都市にはそれほど近くないものの、名古屋、大阪、京都の二つの大都市圏に行ける地理的優位性がある。
- よって、福井での生活は十分豊かであるといえる。

ないないチームの論理

○そもそも「生活が豊かであるか否か」という問題は、単純に数字で表わされるものではなく「住民が本当に豊かであると思っているかどうか」という精神面(=生活満足度)を含めて評価する必要がある。

○しかしこれまでの豊かさ指標は「住む」「費やす」などの８つの指標で評価しており主に「物の豊かさ」（当然あってしかるべきものの指標が強調されている）に関わる項目の指標化であって、豊かさを実感できる指標が含まれていない。

○この場合「物の豊かさ」を中心に指標化された数字は「一人当たり」「千人当たり」という単位で換算すれば、ある程度の整備水準を有し、人口の少ない本県では有利になりやすい。住民意識を含めた今回の「豊かさ指標」が全国１８位であることを考えあわせれば、本県の住民意識では「豊かさの実感」に対してかなり低位であると推察される。

○従って、福井県での生活は本当に豊かであるとはいえない。

各チームの理論構成及び、結論が出そろったところでお互いの理論構成のおかしい点などを指摘する形で、討論が進められたが、議論は非常に白熱し、予定した時間をオーバーするほどであった。

最後に判定者が、「多くの議論がでたが、全体的には「ないないチーム」が攻めて、「あるあるチーム」が守るという構図であった。これはテーマの内容上やむを得ないものだと思う。相手の意見に対する反論の仕方等はもっと検討する必要があったように思うが、ディベートが初めての人も多くある程度はやむをえないのかも。」と講評のあと、判定は不利な立場にも関わらず一生懸命な論理的防御ができたということで「あるあるチーム」の勝ちとなった。

会費納入のお願い

今期の会計年度も、後四ヶ月となりました。しかし、現段階における会費の納入率は約五〇％程度であります。残念なことに、近年会費の納入が遅くなる傾向にあります。また、中には数年分を滞納されている会員の方もいます。会費請求のための通信費など無駄とも言える出費も増加しています。

今一度、この研究会に入会された時の気持ちを思い起こして頂くとともに、自分にとってのＲＥＦとは何なのかを考えていただき、すみやかに会費を納入して下さいますよう、お願いします。

急　募!!

本年度、宙に浮いておりましたＲＥＦ海外研修でありますが、その概要が決定いたしましたのでご連絡いたします。皆さんのご参加をお待ちいたしております。

行先：タイ・バンコク
期日：2月 11 日(水)祝日～2月 15 日(日)
費用：￥140,000(補助がつきますので自己負担はもう少し安くなります)
募集人数：10 人以上
参加希望の場合の連絡先：
福井県都市計画課　三田村まで
0776-21-1111(内線 3454)

編集後記

☆十一月もやがて後半に入り朝起きるのが辛い季節になってきました。前回ＲＥＦニュースを出したのはまだ暑い最中だったので季節の移り変わりの早さをひしひしと感じます。

☆各分科会の活動も中間発表に向けて本格的に動き出し（メンバーを募集しているところもありますが）、活発な議論が交わされているものと思われます。

☆さて、広報担当の方では、常時情報提供をお待ちしております。ＲＥＦに関する情報なら、どんな些細な情報でもお待ちしております。

☆ＦＡＸ番号は０７７６（２８）５１７８槙田宛、メールアドレスは、makida@mitene.or.jpです。

入退会のお知らせ

＜入会＞
正会員
乾陽子氏　田中利治氏
学生会員
Yu Mei
＜退会＞
斎藤好子氏

REF NEWS

'98.2.23
第105号

発行:RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910-0006 福井市大手 3-7-1 (繊協ビル5階) 514
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078

第十八期分科会中間報告会開催！

来るべき第十八期報告会に先立ち、中間報告会が平成十年二月六日に、県民会館において約五十名の参加を得て行われた。まず、司会の槇田氏から開会の辞があり、それに引き続いて会長である本多先生より開会の挨拶があった。

その後、各分科会から時間十分（発表七分、講評・質問三分）で発表が行われた。以下にその概要を掲載する。

最後に、川上先生から総評をいただき、中間報告会は終了となったが、各分科会とも熱の入った発表で、終了したのは定刻の二〇分過ぎとなった。

その後、会場を隣に移し懇親会が行われた。そこでは、稲葉幹事長より開会の辞が述べられ、丹原氏の乾杯で幕を開けた。懇親会の中で本多会長より、分科会に対する研究助成金の発表があり、本年度は交通分科会が獲得した。また、恒例の「ご指名スピーチ」なども行われ、楽しい歓談の時が過ぎた。

以下に各分科会の中間報告会の発表の内容を記す。

熱心に聞き入るフロア

懇親会の様子

邑都分科会（発表・川本義海、講評・加藤式男）
「越前海岸集落の形成過程と地域性について」

本分科会では昨年度、都市部との比較から、海岸集落の地域特性を概略的に把握してきた。そこで、今期は海岸集落の形成過程を明らかにし、地域性にどのように影響しているのか探るために、特徴的な集落を数カ所ピックアップし、調査を進めていく予定である。

今回対象としているのは三国町、福井市、越廼村の各集落で、現段階では各種統計からデータの整理を行っている。今後は、さらなるデータの収集を目指して、現地でのヒアリングを行い、最終的には集落の形成過程の類型化によって、集落のイメージ把握と今後の方向性を探っていく。

交通分科会（発表・寺内義典、講評・龍崎俊和）
「交差点の研究」

本分科会では、今期「交差点」と同様の意味に用いられる「辻」について述べるほか、各地の交差点の生い立ちを紹介する。

今回はまず、「辻」・「交叉點」の語源の調査をした後、福井県内の「辻」のつく地名を調査した。

さらに、具体例として、「大野市」、「武生市」、「金沢市」の交差点について検討する。まず、大野市は城下町としての防御を目的とした、鍵型の屈折した丁字路の交差点が残っている。次に、武生市では現在でも筋違い交差点が多く残っているが、「卍の辻」、「札の辻」等は今でのその面影を強く残している。また、古い記録には「辻」が情報発信地であったとの記録も残っている。最後に、金沢市では、武蔵ケ辻が有名であるが、この場所は都市構造上重要な位置にあり、大正の頃からこの名称で呼ばれていたことが確認されている。

今後はさらに交差点の歴史についてさらに調査を進めるほか、交差点の望ましい姿などをアンケートによって探っていく予定である。

都市美分科会（発表・北島勝三、講評・加藤哲男）
「福井市中心街の景観軸を考える」

都市美分科会は、路面電車を市街地の景観軸としてとらえ、これからの「都市景観」「街づくり」において、役割と都市美の重要なアイテムとして考えていく。

ヨーロッパなどでは、伝統的な社会基盤を『文化遺産』として見直そうという動きがある。そういった観点から見直すと路面電車は『都市基盤』そのものであり、その価値を見直すに値する『交通システム』であり、『文化遺産』でもあると考える。この、景観軸・交通軸の主役となる路面電車をもう一度見直し、有効に活用した都市美・都市景観を調査研究していきたい。

具体的な方法論としては、路面電車を「日常的な交通システムとしての路面電車」、「市街地の景観軸としての路面電車」、「ポテンシャルの高い観光資源としての路面電車」、「二十世紀を代表する文化遺産としての路面電車」といった四つの側面から分析していく。

緑分科会（発表・酒井俊雄、講評・白井秀和）
「福井県の気象条件からみた街路樹整備のありかた」

本分科会では従前からの街路樹マニュアル作成の一環として県内の気象データを収集・分析し、福井県の気象条件に適した街路樹整備のあり方を研究する。

まず、福井県の平均気温はここ五年で一度上昇しており、また平均気温の県内各地の平均気温の差は特に冬期に顕著であることが明らかになった。また、植物の分布に影響するといわれる暖かさ指数についても、三国・大野・勝山・今庄が１０５前後と新潟・富山の暖かさ指数に近いのに対し、越廼・敦賀・美浜・小浜は１２０と横浜京都のそれに近いことがわかった。

総評(川上氏)

邑都の発表(川本氏)

交通の発表(寺内氏)

地盤分科会（発表・那須勝幸、講評・堀江典子）
「地球温暖化」と福井

近年、二酸化炭素による地球温暖化という問題が叫ばれるようになった。そこで、当分科会では福井県の二酸化炭素の排出量や気象の現状を調査し、温暖化が福井においてどのような影響を与えているか調査したい。また、アンケート調査から福井県民の「温暖化」に対する意識を把握し、意識改善への提言も考えていきたい。

平均気温が一度変動すれば日本国民への大きな影響があるといわれている。ましてや、温暖化の影響による二度の変動は生活に大きな影響を及ぼすものと思われる。これから将来世代のためにも今我々が何をすればよいか、また何ができるのか、身近な実践が始められるような調査、研究を進めていきたい。

地象分科会（発表・橋本栄治、講評・野村吉範）
「福井における防災都市づくり」

地象分科会では、この福井震災五〇周年の今年、「福井における防災都市づくり」に関する研究のとりまとめとして、さらに一歩踏み込んだ観点からいくつかの提案をしたい。災害に強い都市づくりを考える上でハードウェアの整備では限界があるため、中間報告ではソフトウェア的な提言をしていく。具体的には、

1．「災害を考える日」の制定と活動
2．「シミュレーション　福井大震災」の刊行
3．情報ターミナルとしての駅などの活用
4．ボランティア・防災指導者の養成

等を考えていきたい。

その他、過去の被災経験・教訓などを踏まえて、災害時における「住民組織と行政の連携」等の課題についても、官民一体となって研究・取り組んでいく必要があるので今後の研究課題にしたいと考えている。

都市美の発表(北嶋氏)

緑の発表(酒井氏)

地盤の発表(那須氏)

地象の発表(橋本氏)

第三回幹事会開催

今期第三回目の幹事会が一月一三日、幹事十二名を召集し職員会館二〇四会議室で開催された。

特別な案件としては、第十八期中間発表会の司会者や総評者の選定、各分科会の発表内容及び発表等の確認が行われた。（一面に関連記事）

さらに、活動交流について、「清水港客船研究会」との交流が検討され、二月か三月に副幹事長の野村氏が先方に会いに行くことが報告された。

また、現在ＲＥＦ会議室がある三谷ビルが建て直されるのに関連して、暫定のＲＥＦ会議室の取り扱いについても協議された。

また、各分科会幹事からは、活動状況の報告もされた。

その他の協議事項については以下のとおり。

［談話会］次回は二月一六日に職員会館三〇二会議室で開催予定。テーマは呉先生の韓国・リバプールについての報告と川上先生の台北調査報告の二本立ての予定。

［理論研］広域学習グループ活動の一環としてディベート形式の理論研を開催。次回は二月の下旬に開催。議題は未定。

［海外研修］二月にバンコク行きを予定したが、参加人数がどうしても集まらないため、新規まき直しで来期の八月に同じくバンコク行きを企画したい。

第１９期海外研修開催決定

本年度（第１８期）の海外研修はタイ・バンコクを予定しておりましたが、開催することが出来ませんでした。

そこで来期の海外研修は、やはりタイ・バンコクに決定いたしました。バンコクでの調査内容や交流方法については、参加者で勉強会を開催し、意見の集約を行い決定することになりました。皆さん奮ってのご参加をお待ちいたしております。

記

行先：タイ・バンコク（国情報については左記参照）
期日：平成１０年８月下旬（４泊５日）の予定
費用：￥１４０，０００程度を見込んでおります
（補助がつきますので自己負担はもう少し安くなります）
お問い合わせ：福井県都市計画課　三田村まで
０７７６―２１―１１１１（内線３４５４）

以　上

☆タイ・バンコクの豆知識☆

正式国名	タイ王国
首都名	バンコク
言語	タイ語
通貨単位	バーツ（2 月 16 日現在、１バーツ＝2.74 円）
時差	－２時間
８月頃の気温	最高 28.7℃、最低 27.8℃
８月頃の降水量	196.8mm
ビザについて	30 日以内の滞在は不要 往復予約済航空券が必要
パスポートの残存有効範囲	無査証の場合、入国時６ヵ月以上

編集後記

☆中間報告会も開催されて、ちょうど十八期の活動も折り返し地点を迎えました。今回の中間発表は本多先生が、活動状況報告求めるなどちょっとした波乱もありましたが、これを機会に六月の総会に向けてますます各研究を進めていただければ、と思います。

☆また、中間発表終了後、緊急にＲＥＦ報告書のＡ４版化に関するアンケートが行われ、どうやら今年もＢ５版による発行となりそうです。

☆福井県庁においても、来年度からＬＡＮの導入が検討されているため、一部試験的にＲＥＦニュースの電子メール化についても検討していきたいと考えています。

REF NEWS

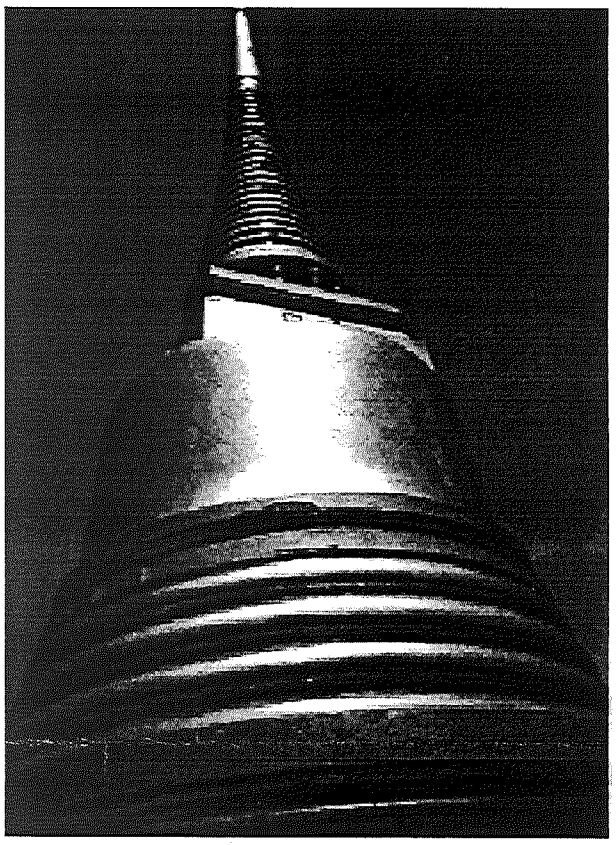
'98.4.11
第106号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910-0006 福井市大手 3-7-1（繊協ビル5階）514
（財）地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL.（0776）27-0078

第18期海外研修参加者募集!!

行先はバンコク・日程は8月26日から8月30日

本年度の海外研修は、諸般の事情で中止になったタイ・バンコクに決定した。バンコクでの調査内容や交流方法については参加者で勉強会を開催し、意見の集約をし決定することになった。費用日程については以下のとおり。なお、担当幹事の話では、現時点で十人前後の参加が見込まれているが、より多くの参加を希望したいとのことだ。



日程（案）　平成１０年８月２６日(水)から平成１０年８月３０日(日)
４泊５日
２６日(水)午前　名古屋空港発
夕方　バンコク着
２７日(木)午前　バンコク市内交流先訪問
午後　バンコク市内班別行動（調査）
２８日(金)　バンコク市内班別行動（調査）
２９日(土)午前　バンコク市内班別行動（調査）
夕方　バンコク発
３０日(日)午前　名古屋空港着
夕方　福井着

料金　１３９，０００円
初参加会員（１１９，０００円）
学生会員　（１０９，０００円）

申込期限　平成１０年４月２４日

☆タイ・バンコクの豆知識その２☆

タイ国内移動

◎鉄道

タイの国鉄はおおまかに北、東北、東、南の4線に分けられる。時刻は比較的正確だが、ときどき大きく遅れることがある。列車には特急、ディーゼル特急、急行、快速、ディーゼルカー、普通と6つの等級があり、　さらに車両には1等から3等までの等級がある。1等は個室になっており、夜行のエアコン付き寝台車にしか連結されていない。2等車にはエアコン付きかなしかの2種類があり、3等車は全席自由でエアコンなし。座席や寝台の予約は通常90日前から受け付ける。

◎飛行機

タイは国内線の路線網が整備されているので、飛行機での移動も便利だ。国内線はタイ国際航空とバンコクエアウェイズ、オリエントエクスプレス航空の3社が運行している。タイ国際航空のバンコク～チェンマイ線や、バンコクエアウェイズのバンコク～コ・サムイ線などは人気が高いのでシーズン中は早めに予約したい。バンコク～チェンマイ間が片道約八千円とどの路線も比較的安いので、時間がない人は積極的に利用しよう。

◎バス

タイで最もポピュラーな移動手段はバス。都市と都市を結んで、沢山のバスが毎日行き来している。旅行者にとって特に便利なのは主要都市間を結ぶ長距離バスで、普通バスとエアコンバス、エアコンバスの座席を減らしてゆったり利用できるＶＩＰバスの3種類に分けられる。普通バスは当然エアコンなしで車体もくたびれているが、その分料金も安いので節約派の強い味方。エアコンバスは全席指定で飲み物や軽食のサービスなどもあり、なかなか快適だ。　特に長距離を移動する場合などは夜行バスもあるので、寝ている間に移動できて楽だ。ただしここ数年、夜行バスの中で外国人旅行者をねらった盗難事件が頻発しているので、貴重品の管理には注意必要。

第四回 幹事会開催

今期第三回目の幹事会が一月一三日、幹事十一名を召集し福井土木事務所第三会議室で開催された。

特別な案件としては、ＲＥＦ十八号の編集について、編集委員・執筆者の選任、スケジュール等が話し合われた。また、今年は博士論文を提出する会員が数名いるため、その概要を掲載することも決められた。

さらに、新規まき直しを図る海外研修は、研修先・日程・料金等が提示され、初参加会員や学生会員等には補助金を出すことで承認を得た。

また、現在邑都分科会長を担当している川本氏が就職するのに伴って、後任の分会長として杉森氏が推薦され、全会一致で了承された。

また、各分科会幹事からは、活動状況の報告もされた。

その他の協議事項については以下のとおり。

［談話会］次回は博士号をとる会員による研究発表を予定。日時は未定。

［理論研］前回は二月二十五日に「現在において地方分権は必要か」というテーマで開催。次回議題・日時は未定。

分科会活動報告について

現時点での活動状況は次の通り。

【交通】四月二十二日に分科会を開催予定。

【緑】二月十八日、三月十六日に分科会を開催。街路樹マニュアルの作成を進めている。

【地盤】二月十八日に分科会を開催。アンケート、資料収集、シミュレーションに作業を分担している。

【邑都】四月上旬にアンケートの作成などの作業を予定。

【地象】四月十日に分科会を開催予定

【都市美】四月中に分科会を開催予定。

理論研究会開催

２月４日、理論研究会（ディベート）が、８名の参加により職員会館で行われた。

テーマは「現在において、地方分権は必要か」であった。

まず、「あるあるチーム」リーダー野村吉範氏、「ないないチーム」リーダー寺内義典氏がそれぞれの意見を述べた。その後、互いにほぼ同数に分かれてチーム内で論理構成をまとめ、討論に移った。

今回は、地方分権という行政関係者以外にはなかなか理解しにくいテーマであったことから、地方分権推進委員会の報告内容や県民生活意識調査結果を参考資料として討論を進めた。

互いのチームどうしの討論では、「ないない」チームに対して「現在は必要でないが、将来は必要であるという論理構成がわかりにくい」、「あるある」チームに対して「現在における必要性の根拠が明確でない」との批判に対し、回答に窮する場面があった。

また、議論するうちに、テーマ自体がわかりにくいとの批判があった。テーマの「必要性」という言葉が「実現可能性」と同一の意味なのか、違う意味なのかが示されておらず、議論がかみ合わないとの内容であった。担当としてテーマの難しさを考えさせられた。

橋本栄治氏の判定結果は、議論の内容は両チームともほとんど差がなく、批判数の多さで「ないないチーム」の勝利となった。

次回は、テーマを修正し、再度「地方分権」のテーマで実施したいと考えている。　なお、両チームの理論構成の結果を以下に示す。（理論研担当：酒井俊雄）

あるあるチームの論理

- 自分のことは自分で決める。
- 全てを地方でやれとはいわない。
- 国は地方の調整役・アドバイスをする。
- 地方の自主性・自立性が高まり活性化する。

ないないチームの論理

○地方分権の推進は、国及び地方公共団体が分担すべき役割を明確にし、地方公共団体の自主性・自立性を高め、個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現することを目的としている。また、地方分権は必要と考えているが、以下の理由により効果があるとは考えにくい。

○現況では、地方分権により発生する住民のニーズに応えるだけの人員や能力が、地方公共団体に確保されているとはいえない。

○また、住民の意識調査の結果を見ると、地域格差が生じても自分たちの手で地域を作るという覚悟が欠けており、住民側の意識もまた充分とはいえない。

○以上より、現状ではその受け皿が充分とはいえず、地方分権は時期尚早であり、現在において実施しても効果が上がらず、必要と言わざるを得ない。

第51回談話会報告

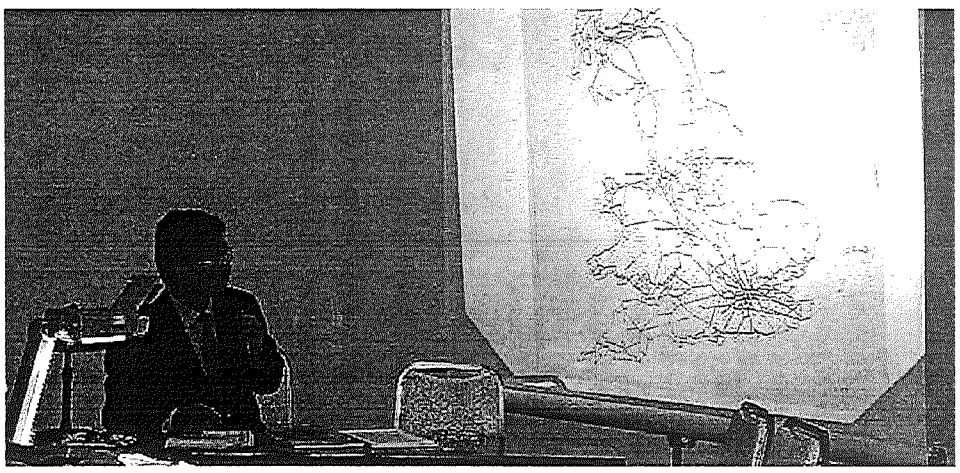
第一部
「英国リバプールの衰退と公共交通の合理性について」
ゲスト：呉　允杓氏　韓国東亜大学校工科大学教授

第二部
「台北市街路調査報告」
ゲスト：川上洋司氏　福井大学工学部助教授
児玉　忠氏　福井県雪対策・建設技術研究所

第51回談話会が、2月16日に参加者24名で県職員会館にて行なわれた。

第一部では、呉氏に3ヶ月間イギリスのリバプールで研究された成果を報告していただいた。

第二部では、(財)地域環境研究所と福井大学工学部環境設計工学科地域・交通計画研究室で合同で実施された台北都市調査の報告を川上氏、児玉氏にしていただいた。



編集後記

☆異動や卒業など忙しくバタバタしている間に桜も開花し、すっかり春めいてきました。

☆以前からの懸案事項であった海外研修も正式に日程、行程などが決まりました。社会人、学生等にも比較的参加しやすい時期だと思われますのでどしどし参加して下さい。

☆第十八期の活動もほぼ三分の二が終了し、各分科会も七月の研究発表に向かって前進していることと思います。

さらに、ＲＥＦ第十八号の原稿〆切の方も決定しました。各分会長・幹事の方々はくれぐれも〆切厳守でお願いいたします。（ま）

REF NEWS

'98. 8. 12
第107号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910-0005 福井市大手 3-7-1 繊協ビル 5階
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078

第十九回総会開催

第十九期 役員・予算案議決！

第十九回総会が七月十一日福井県職員会館で開催され、第十九期目の予算案、役員案等が審議、議決された。

総会には、会員会友あわせて約五十名が参加し盛大に行われた。

総会の次第として、本多会長挨拶に続き、長谷川総務担当幹事より新入会員紹介及び会員等異動報告があった。さらに、稲葉幹事長により第十八期活動報告があった後、堂本氏を議長に選出し、議事に移った。

本多会長の挨拶では、まもなく二十周年を迎えるにあたり、これまでのＲＥＦのあゆみも併せて紹介された。

議決事項としてはまず、第十八期の決算報告から始まり、新任七人を含む第十九期役員案が審議され、総務支援を廃し、新たに地域交流支援を設置することと共に可決された。

▲全員による記念撮影

最後に、稲葉幹事長の決意表明や各分科会幹事長等から第十九期における活動方針の説明があった。

その後、会場を三階に移し、顧問の富田氏の挨拶に引き続き、丹原氏の乾杯によって懇親会が始められた。

懇親会では、県会議員の坂川氏、大日本コンサルタントの長谷川氏、新入会員が挨拶を行い、会員相互で大いに交流を深めた。恒例となっているご指名スピーチも、かなりの盛況ぶりであった。

終了後は、一部の会員はいつものように夜の片町へと消えていった。

【第十九期 役員】 ○は新任役員

会長 本多義明（福井大学工学部教授）
副会長 児玉 忠（福井県都市計画課）
幹事長 稲葉隆夫（福井県武生土木事務所）
副幹事長 ○堂本博滋（㈲総合環境設計事務所）
（地域交流） 野村吉範（福井県福井土木事務所）
幹事
（総務） 長谷川義則（福井県建設技術公社）
（財務） 龍崎俊和（福井市総務部工事検査課）
（広報） 槙田 強（福井県漁港課）
（談話会） 乾 博次（中央測量設計㈱）
（論文理論研） 酒井俊雄（福井県道路建設課）
（研修会） 三田村佳紀（福井県県道路建設課）
（地域交流支援） ○酒井理恵（福井県監理課）
（財務支援） 菅原桂一郎（福井県今立土木事務所）
（広報支援） ○倉田知幸（福井大学大学院工学研究科）
（談話会支援） ○田辺 毅（福井大学大学院工学研究科）
（理論研支援） ○服部正秀（福井大学大学院工学研究科）
（研修会支援） 伊戸康清（福井県朝日土木事務所）
分科会長
（交通） ○寺内義典（福井大学大学院工学研究科）
（土地利用） ○沢崎幸夫（福井県建設技術公社）
（緑） 中村 毅（福井県都市計画課）
（地盤） ○朝日郁代（㈱サンワコン）
（邑都） ○杉森正義（福井県雪対策・建設技術研究所）
（地象） 橋本栄治（福井県福井土木事務所）
（都市美） 北島勝三（㈱緑の風景計画）
参与 加藤哲男（福井県大野土木事務所）
監査 近藤幸次（福井県福井土木事務所）
顧問 栗田幸雄（福井県知事）
今野修平（大阪産業大学教授）
富田伊太郎（㈱サンワコン顧問）
富永六郎（㈱コミュニティー企画研究所）

第 18 期 決算報告（H9.4.1～H10.3.31）

収入の部

費目 目	費目 節	予算 (A)
会費		1,810,500
	正会員	1,314,000
	学正会員	20,500
	会友	240,000
	中間報告会	122,000
	総会	114,000
繰入金	第17期繰越金	585,237
預金利子		487
雑入		10,000
補助金	生活学習館補助金	150,000
会費未納金		66,000
計		2,622,224

支出の部

費目 目	費目 節	予算 (B)
事業費		718,670
	分科会活動助成金	330,000
	理論研究会助成金	25,464
	談話会助成金	53,000
	研修会助成金	90,046
	機関誌印刷費	173,670
	広域活動助成金	46,490
会議費		423,326
	中間報告会費	161,455
	総会費	220,662
	幹事会費	41,209
事務費		145,850
	会議室管理費	30,000
	通信連絡費	89,300
	旅費	15,000
	雑費	11,550
予備費		0
積立金		350,000
計		1,637,846

第 18 期 予算（H10.4.1～H11.3.31）

収入の部

費目 目	費目 節	予算
会費		2,108,000
	正会員	1,440,000
	学正会員	30,000
	会友	438,000
	中間報告会	100,000
	総会	100,000
繰入金	第18期繰越金	984,378
預金利子		22
雑入		2,600
補助金	生活学習館補助金	150,000
計		3,245,000

繰越金 ＝ (A)－(B)
＝ 984.378

支出の部

費目 目	費目 節	予算
事業費		1,670,000
	分科会活動助成金	490,000
	理論研究会助成金	80,000
	談話会助成金	150,000
	研修会助成金	600,000
	機関誌印刷費	200,000
	広域活動助成金	150,000
会議費		510,000
	中間報告会費	200,000
	総会費	270,000
	幹事会費	40,000
事務費		180,000
	会議室管理費	0
	通信連絡費	130,000
	旅費	20,000
	雑費	30,000
予備費		185,000
積立金		700,000
計		3,245,000

分科会報告会

第十八期研究成果を発表

総会に先立ち、第十八期の分科会活動報告会が酒井理恵氏の司会で開催された。今年は発表十分、討論者のコメントが三分、会場からの質疑応答が二分の一分科会当たり発表十五分の時間割で五分科会から研究成果が報告された。

討論者からのコメントとして、

「樹木を主体に考えているが、花壇等地域住民が手入れし易いものにも言及してはどうか。」（緑分科会）

「交差点と一言にいっても、一般的な十字路と三叉路等変則交差点との比較をしてもおもしろかったのではないか」（交通分科会）

「全体的には次期への予備調査という感じ。収集したデータからの温室効果の証明が弱いような気がする。発電とエネルギー消費量については県にデータがあるので参照してはどうか」（地盤分科会）

「集落形成の過程を分析した上で、集めたデータを今後にどうやって生かしていくかを考慮するといいのではないか。」（邑都分科会）

「福井の都市景観の考察という比較的身近なテーマを選択したのは大変よかったと思う。ただ、路面電車を歴史的遺産という表現はそぐわないのではないか。」（都市美分科会）

という指摘があった。

また、川上先生からの全体的な講評として、

「ＲＥＦの活動は大学等の研究と違って制約なしにチャレンジャブルな、コンセプト主導型の研究ができるのでそのメリットを最大に生かすようにして欲しい」とのコメントがあった。

今期は例年になく議事進行が非常にスムーズに進み、ほぼ予定通りに発表会を閉会することができた。

▲発表の様子

▲活発な議論が行われた

▲会場の様子

第十九期 海外研修概要決定

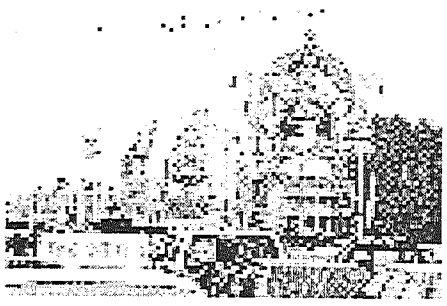
八月二十六日から三十日にかけてタイ・バンコクにて行われる本年度の海外研修の調査内容について、概要が固まった。

参加者は、川上洋司氏（福井大学 工学部）を団長とする十六名（学生会員六名を含む）で、七月十六日に福井大学にて第一回事前学習会がおこなわれ、現地にてテーマ毎に四班に分かれて調査を行うことが決定された。各班のテーマは次のとおり。

バンコク交通調査班　（班長 稲葉隆夫（福井県武生土木事務所））
都市環境調査班　（班長 加藤哲男（福井県大野土木事務所））
バンコク都心部調査班（班長 中村 毅（福井県都市計画課））
バンコク郊外部調査班（班長 加藤式男（帝国コンサルタント））

各班の調査内容については、交通調査班は、バンコクにおける自動車交通や、近年の地下鉄整備など、都市内交通事情を中心に、都市環境調査班は、バンコクの都市景観等についても触れる。また、都心部調査班は、「ソイ」と呼ばれる行き止まりの路地や、土地利用の様子について、郊外部調査班は、バンコク郊外で行われている、ニュータウン開発の様子についてをそれぞれ予定している。

いずれの班も既に、調査内容についての事前学習会を行っており、現地についてからも活発な調査が期待できそうだ。



入退会のお知らせ

＜入会＞

正会員　野嶋　慎二
学生会員　林　快宗
浅田　潤
佐野　正
安本　和幸
林　暁帆
周　永广
田辺　毅
服部　正秀
金井　智志
倉田　知幸
芹田　まゆみ

＜退会＞

正会員　松本　憲郎
斉藤　好子
会友　伊藤　仁志
南保　祐心
村本　清美
河野　芳輝
学生会員　宮下　孝

＜異動＞

正会員→会友
堀江　信之
陳　怡平
石森　信敏

学生会員→正会員
川本　義海

学生会員→会友
杉江　稔
山田　純一
坂井　美文

編集後記

☆今年の夏はなかなか梅雨が明けず、どうやら知らぬ間に秋の気配すら感じられるようになってきました。

☆さて、ＲＥＦの充実した十八期の活動を終え、その成果は同封したＲＥＦ第十八号にて確認していただけるものと思います。

☆そして、今十九期は二十周年に向けたプレシーズンとして、ますます充実した研究活動が行われるものと確信しております。

☆まずその第一弾として、海外研修として、十六名の有志がタイへと旅立つことになりました。事前の勉強会も行われ、実りある研修になることと期待されます。

☆さて、広報担当は今期も槇田が担当となりますが、広報支援は福井大学Ｍ１の倉田へとバトンタッチされました。

☆ニュースへの意見、要望、話題提供等ございましたらぜひ広報担当までご一報下さるようお願いします。

ＦＡＸ番号は、
０７７６（２８）５１７８槇田宛、
メールアドレスは
makida@mitene.or.jpです。

REF NEWS

'98. 9. 30
第108号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910-0005 福井市大手 3-7-1 繊協ビル 5階
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078

第十九期海外研修

バンコクより無事帰国！

この度、REF第十四回海外研修・バンコク都市調査団が無事その調査を終え、帰国した。

今回のバンコク訪問は、一九八四年の第三回海外研修に続いて二回目となるが、十四年ぶりのバンコクの変貌に驚きを感じていた参加者もいて、その点を比較検討された報告も期待できそうである。

今回の日程は、八月二十六日から三十日までの五日間であったが、現地は雨季であるにもかかわらず、晴天に恵まれ、バンコク首都圏庁訪問を初めとした日程をスムーズにこなすことができた。

今回のREFニュースでは、学生会員参加者の貴重な体験談で綴ってみたいと思う。

▲王宮前広場にて全員で記念撮影

タイ研修旅行へ行って　金井 智志

以前から学生のうちに海外旅行、特にタイには一度行ってみたいと思っていました。そんな時にREFでタイに行く話があったので、この機会に是非行こうとすぐに決断しました。行く前のタイの印象は、一言で言うと「東洋の神秘」みたいな感じで、すこし怪しくて危険な印象を持っていました。しかし実際に行った後の感想はとにかく暑く、物価がすごく安く、そしてタイの女性は美人が多かったことが印象的でした。タイは天気が良くても突然スコールがやってくると聞いていたのですが、滞在中は一度もスコールが来なかったので僕にとっては天然のサウナ状態で、立っているだけで汗が滝のように流れてきました。今となってはいいダイエットだったなと思います。あと勉強になったことが、水には気をつけた方がいいということです。特に僕の胃腸はデリケートだったので、安全といわれていた水も体がうけつけませんでした。そのことで皆さんには大変迷惑をかけてしまい申し訳ないと思っています。でもまた機会があればタイに行きたいと思います。（福井大学　院一年）

はじめてのタイ　倉田知幸

他の学生会員と同様、私もタイへ行くのはもちろん、海外へ出るのも初めての経験でした。彼の地バンコクを見た感想を一言で表せば、「福井より都会」だったということになるでしょうか。その街は活気に溢れ、のんびりとした福井から出てきた私たちを飲み込むような勢いでした。経済危機が叫ばれる中でしたので、どんな具合だろうかとも思いましたが、高速道路や高架鉄道など街中にはいたるところ槌音がして、その結果交通渋滞も各所で起こっていました（「一時期よりはマシになった」そうですが）。

班別調査では、とにかくバンコクを歩き回りました。毎日一万～二万歩。しかし、不思議と疲れを感じられない。そんな街でした。とにかく、タイ人は親切です。道に迷っていれば声をかけてくれます（客引きなのかもしれませんが）。私の片言の英語でも意志は伝わるものですね。国際交流はそういった所が第一歩なのかもしれないと感じました。

また、雨季にも関わらず、五日間（四日間？）晴天に恵まれたことに、運の良さを感じるとともに、「日頃の行いの良さの賜物だな。」などと勝手に思っていました。おかげで福井で味わえなかった「夏」を満喫することが出来ました。（変な日焼けもしましたし。）

最後になりましたが、海外初心者の私をタイに連れていってくれ、（夜の街を含めて）貴重な体験をさせて頂いたREFのみなさん。特に、班別調査でお世話になった中村さん、橋本さん、木田さんに心から感謝します。（福井大学　院一年）

バンコクでの思い出　林快宗

まずタイについての感想といえば、臭いがきつかったということです。下水が整備されていないので、そこら中に張り巡らされている水路が下水代わりになっていたのでかなり臭かったです。また、タイの人は家でご飯を作ることなく、外で食べるので屋台が至る所にでており、その臭いは香辛料の臭いがきつく先程の水の臭いと混じり、何とも言えない感じがしました。また三十度を常に越す熱気もあり昼間は、外にいると息苦しい感じがしました。しかし、暑い反面、建物の中にはいると涼しく、そこでの飲みもの（氷が入っていると怖いのでいつもビール）は、ちゃんと冷えておりすごく美味しかったです。また空の青さと建物などの鮮やかさの対比はとても綺麗でした。

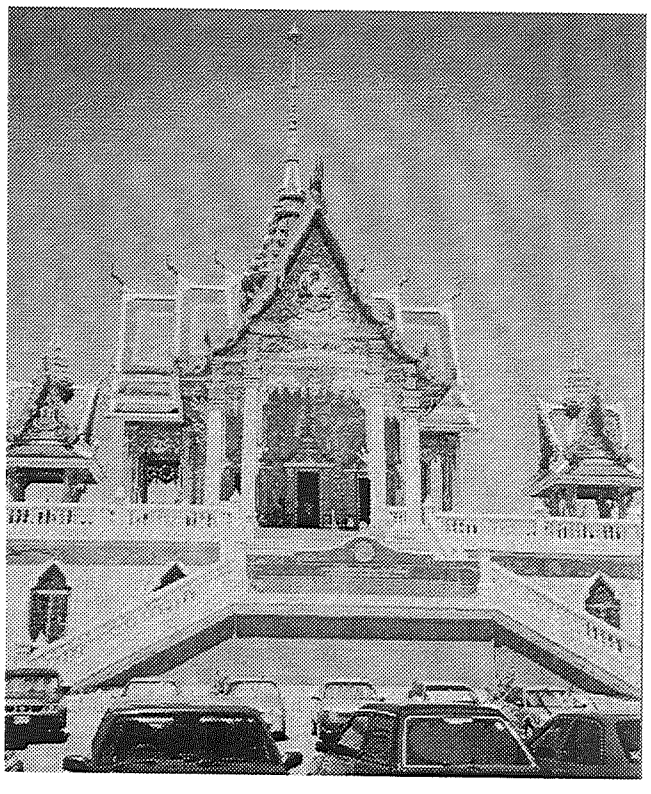
また調査では、現地の人に乗せられたタクシーのせいで変な観光地めぐりさせられたり、ホテルに短パンでいって入れなかったことなど色々あって貴重な体験をすることができて良かったです。

夜は夜で、繁華街調査に行きましたが書類に残すことはできません。

また来年もぜひREFの海外研修にいかせてもらいたいと思うのでビールに強くなろうと思いました。（福井大学　四年）

バンコク研修旅行を終えて　浅田 潤

今回初めての海外旅行に行き、日本にいた時の率直な感想としては、すごく満たされているような感じであった。自分の中でせっかく海外に行くのだから行くからには何か得られればいいなと思っていました。わくわくしながらバンコクの空港につき、大事にパスポートを持っていた。何も知らない自分にっとっては周り全て敵のような感じだったんだと思う。そんな中二日目三日目といろんな所を見学し日本では見られない光景をたくさん見ることが出来た。最も現在の日本との違いといえば活気が違った。すごくバンコクの街は活気に満ち溢れていて日本で生活している時よりも充実感があるような気がしたけど、料理は日本の方が断然うまいと思いました。あと、英語の必要性をとても痛感させられました。やはり現地の人たちと会話が出来なかったのはショックであり、今後につながる収穫でもあったと思う。最終日には結構自分なりにバンコクになじんできていたような気がしていただけに飛行機から見えたバンコクの夜景がとてもさみしく思えました。結論として僕が言いたかったのは「夜のバンコク最高」それだけです。（福井大学 四年）



タイ・バンコクの研修旅行を終えて　佐野 正

私は二十二年間海外というものを経験したことがなく、全く無縁なものであった。そんなとき、タイ・バンコクの研修旅行がREFで行われることになり、私は最後まで迷ったが参加することとなった。正直に言うと私は行きたくなかった。なぜなら、自分自身の問題で不安・迷いが多くあり、精神的に不安定な時期でもあったからだ。そんなとき、室友であり、友達であるAさんに一言誘われたこともあり、悩んだあげく

（裏面上段につづく）

（表面下段より続く）

何か良い機会だと考え直し最終的に参加したという経緯である。

タイ・バンコクに到着してからの私は出発前とは異なり、自分から楽しむことだけを考えていた。これは以前抱いていた不安よりも何か分からない期待に駆られていたのだと思う。バンコク市内はメガロポリスといわれるだけあり、都市の大きさに圧倒された。しかし、私が圧倒されたのは、都市の大きさとか人の量とかそんなものではなかった。そこに住んでいる人々の目の輝きとか活気が、日本には感じ取ることのできないものであった。それを感じたとき、出発前に考えていた様々な悩み・迷い・先入観が跡形もなく砕けた瞬間であった。それは目の輝きの奥にある人間としての優しさ・嫌らしさ・美しさ・汚さがものすごくストレートに私には伝わってきた。今までは貧しいとか聞いていたが、実は自分の方が貧しいと感じた。それは、心の豊かさの違いだろう。これは、バンコクで出会った人から感じたことだ。

タイ・バンコクに行って、海外の文化や歴史に触れることで、海外の楽しさを感じることができて本当によかった。今後、多くの海外旅行をしたいと思った。

最後に、この研修旅行で学んだことは

①物事を前向きに考えること

（一生懸命生きる）

②出会いを大切にすること（愛）

③迷うならとにかく飛び込むこと（勇気）

タイ・バンコクに行って改めて自分を見つめ直すことができ、良い経験になったと思う。

これからもイベントに多く参加し、より多くのことを経験していくつもりです。（福井大学 四年）

タイ旅行記　安本和幸

今回の旅行の目的は、一応調査ということになっていて実際調査をしたんだけれど、日本に帰ってきて思い返してみると、調査旅行というよりも年も学年も違う修学旅行といったほうが何だかしっくりくるような気がします。行く前は、知らない年配の人たちが多いので少し不安だったけれど、いざ行ってみるともう歳なんか関係なくとても親しくなれました。これも見知らぬ土地バンコクにきたおかげだと思います。バンコクに行っての第一印象は暑い、臭い、汚いというあまりよくない印象を受けました。それが、何日か経つうちにこの土地になじんで来たのか、ぜんぜん気にならなくなり、しまいにはまた行きたいと思えるほどいい印象に変わりました。これもすべて、添乗員の出口さん、レックさん、また参加者全員のおかげであり、こんなに楽しい旅行はそうできるものではないと思うので来年機会があればまた参加したいと思います。（福井大学 四年）

◆ルンビニ公園からの景色

第一回幹事会開催！

今期第一回目の幹事会が九月三日、幹事十二名を召集し福井土木事務所内において開催された。

まず、最初に八月二十六日から三十日にかけて行われた海外研修について無事帰国した旨が報告された。

特別な案件としては、十月十日に行われる広域学習グループ交流大会において、海外研修の発表を行うことや、展示の内容の検討、また、会場にてＲＥＦニュースを配布することなどが決定された。

各分科会幹事からは、活動状況の報告もされた。

また、最後に幹事長からＲＥＦの活動について「分科会の活動は活発だが理論研と談話会の活動が弱ので、その活動を活発にしたい。また来期のＲＥＦ二十周年記念事業の体制づくりをし、シンポジウムだけではなく記念誌等記録に残るものも作っていきたい。」との方針が打ち出された。

その他の協議事項については以下のとおり。

［理論研］次回は十～十一月に開催。議題は未定。

分科会活動報告について現時点での活動状況は次の通り。

【交通】Ａグループ（執筆）とＢグループ（討論）に分けて活動予定テーマは未定。九月二十二日に分科会を開催。

【 緑 】九月二十一日に分科会を開催。街路樹マニュアルの完成と新しいテーマの模索をする予定。

【地盤】九月十六日に分科会を開催。研究テーマは土壌の研究か温泉の研究になる予定。

【地象】九月二十五日に分科会を開催。研究テーマは土砂災害の歴史になる予定。

バンコク都市調査団無事帰国！　　１０月１０日に報告会

平成十年度　広域学習グループ交流大会開催

ＲＥＦ第１４次海外研修・バンコク都市調査団が予定どおり８月２６日から３０日までの日程を終え無事帰国しました。

これらの貴重な体験談の報告会を広域学習グループ交流大会公開講座で下記のとおり開催することとなりました。

土曜日の開催でもあることから、ＲＥＦ会員のみなさまにあっては積極的な参加をお願いいたします。

なお、参加を希望される方は、担当まで事前にご連絡いただくようお願いいたします。

記

日時：平成１０年１０月１０日（土）　午前１０時～正午

場所：生活学習館（ユー・アイ・ふくい）

テーマ：バンコク探訪記

～体当たりで見て感じたバンコクの素顔～

司会：三田村　佳紀

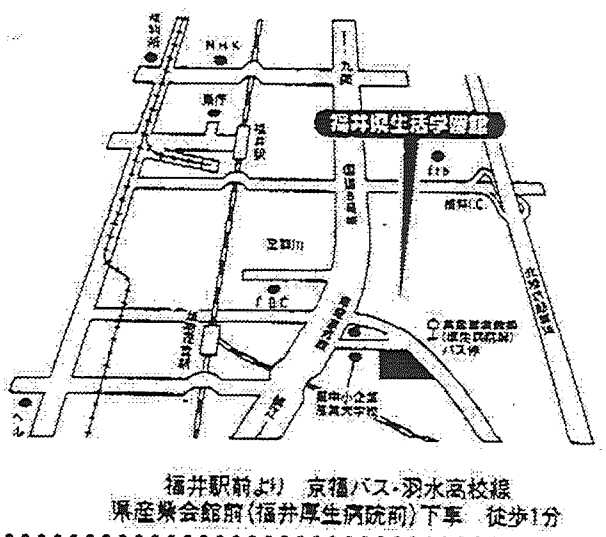
報告者：川上洋司・加藤哲男・橋本栄治・稲葉隆夫・加藤式男

担当：福井県福井土木事務所　　野村吉範

TEL(0776)24-5111　内線 212

福井県公園下水道課　　酒井理恵

TEL(0776)21-1111　内線 3474



福井駅前より　京福バス・羽水高校線
県産業会館前（福井厚生病院前）下車　徒歩1分

◆ユー・アイ・ふくい案内図

編集後記

＊今号は、先日無事帰国した海外研修の特集をくんでみました。

＊かくいう不肖私もタイ・バンコクの都市調査に参加させていただきましたが、滞在した３日間は雨期であったにもかかわらず、全く雨が降らず、抜けるような青空が続き、日本には来なかった夏がここにあったんだなぁとしみじみと感じました。

＊本記にもあるとおりこの研修の貴重な体験談を十月十日に生活学習館で報告会が行われます。皆さんもどしどしご参加下さい。（ま）

＊ニュースへの意見、要望、話題提供等ございましたらぜひ広報担当までご一報下さるようお願いします。

ＦＡＸ番号は、

０７７６（２８）５１７８槇田宛、

メールアドレスは

makida@mitene.or.jpです。

REF NEWS

'99. 3. 11
第109号

発行：RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910-0005 福井市大手 3-7-1 繊協ビル 5階
(財)地域環境研究所内 福井地域環境研究会
TEL. (0776)27-0078

第十九期分科会中間報告会開催！

きたるべき第十九期報告会に先立ち、中間報告会が平成十一年二月五日に県民会館において行われた。当日は雪にも関わらず、会員三十五名、会友・ゲストが三名と多数の参加があった。まず、司会の野村氏から開会の辞があり、それに引き続いて副会長である児玉氏より開会の挨拶があった。

その後、各分科会から時間九分（発表七分、講評・質問二分）で行われ、最後に、福井卓雄先生から総評を頂き、中間報告会は終了した。

その後、会場を隣に移して懇親会が行われ、この中で、川上副会長より、分科会に対する研究助成金の発表があり、本年度は、七年ぶりに活動を再開した土地利用分科会が獲得した。また、今回は福井先生を始め、率先してスピーチに立たれる方が多く、会場は盛り上がりを見せていた。終了後は、土地利用分科会の現地調査を助けるべく、多くの会員が夜の街へと繰り出していった。

以下に中間報告の概要を掲載する。（発表順）

邑都分科会
（発表：倉田　知幸、講評：竹内　成和）
「福井県における漁業集落について」

邑都分科会では十七期に海岸集落の地域特性を捉えるために、その地形的な特徴・集落の空間構成・文化や産業といった歴史について大まかに捉えた。今期は漁業集落に注目し、それらの空間的構成について類型化を行うとともに、これらの視点から漁家率を用いることで漁村の空間構成の変遷課程をマクロ的に類型化し、その問題点の提示と整備課題について知見を得ることを目的としたい。

既存の研究の成果から漁村地域が今後とも国民の生活空間の重要な一部分であると位置づけられていて、その立地・地形条件と集落の整備事業、集落とその立地の関わり方の変化により漁業集落の内部空間が大きく変わってきている。しかしこれまでの研究は空間の変容の実体あるいはそのパターン化にとどまっている場合が多く、それらの変容に影響する要因についてはまだ解明する余地が多く残されている。

そこで、我が国の中でも高い特殊性を有している福井県における漁村集落について考察していきたい。漁村集落の実体をみる上では、福井県が平成十年2月にいった「漁村背後集落調査」があり、今回はこれらにみられる漁家率という定義と各データについて比較分析した。

今後はこれらのデータを加味した上で地域性や集落の空間構成の特徴を類型化するとともに、歴史的変遷も含めた福井県内における漁村集落の変容に与える諸影響について考察していきたい。

交通分科会
（発表：寺内　義典、講評：槇田　強）
「交差点の研究」

交通分科会では昨年度、交差点の変遷に関する調査を行った。そこで、今年度はまず交差点のもつ機能について調査し、今後求められるであろう交差点のあるべき姿などについて考察するものである。この発表では、調査対象交差点の抽出とそれらの機能についてまとめる。

福井県における7市と金沢市の合計8市それぞれについて、「市街地中心部にあるもの」「交通量が比較的多いもの」「歴史性などシンボル性があるもの」などの条件を考慮して、各市3交差点の抽出を行った。

これら交差点について、歩行者や自動車などの交通量などから交差点を大きく4つの累計に分類した。特に、各類型が一つづつ含まれる、福井市3交差点の機能については、以下のように解析される。

会場の様子

邑都の発表(倉田氏)

A類型の大名町交差点では、福鉄・バスターミナル・地下駐車場が周辺に存在しており、交通結節機能が大きいと考えられる。B類型の新保交差点ではトラフィック機能が大きく、アクセス機能が次に大きく、対して歩行者の機能は少ないと評価できる。これは元来、南北・東西交通の要としてトラフィック機能が大きく、近年の郊外大型店の立地がアクセス機能を大きくしてきていることによるものである。

今後は、各類型別、交差点別で指摘された機能の根拠や履歴について、実地調査も含めてより詳細に調査検討していく。

最終的には、交差点整備のためのランク付け、都市全体からみた交差点の位置づけ、今後の交差点整備の方向性について検討する。

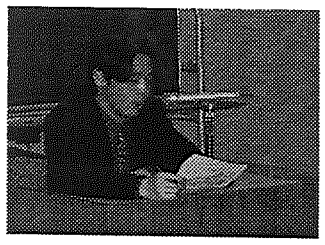
都市美分科会
（発表：白井　秀和、講評：野島　慎二）
「路面電車を生かした活かした街づくり」

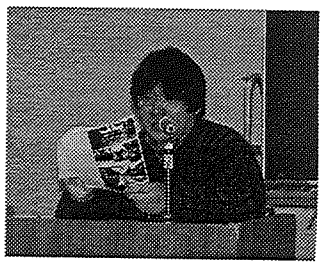
昨年度は、福井市中心街の景観軸を考えるをテーマに、路面電車を軸とした都市の顔と景観軸を考えてきたが、今回はこの景観軸を路面電車に特化し、福井鉄道腹部線と中心市街地の活性化についてシミュレーションやパターンランゲージを行い、研究していきたいと考えている。

今回の研究ではまず、既存の文献から福井市における路面電車の概要と現状、これまでの経緯を把握する。

福井市における路面電車については、他都市同様、近年の急激なモータリゼーションの進展の中で、その存廃をめぐる議論が沸き起こった。さらに機能分散的な車型都市構造への移行の中で、中心市街地の衰退が深刻化し、駅前商店街振興組合が支線部分の撤去申請を市に対して提出した。更新させることに要する多大なエネルギーと時間を考える限り、将来に向けての潜在的な価値を切り捨てざるを得ず、現在価値から来る不要論という安易な選択が支配したというのが真相であろう。このような経緯をみると事業者自ら何らなすすべなく、諸々の外部条件の変化の中で翻弄されてきた、我が国なりの路面電車の一典型をみることができる。

このような背景を元に次の課題についてまとめるとともに、先進国であるアメリカのLRT体験談も交えた成果をまとめていく考えである。


交通の発表(寺内氏)


都市美の発表(白井氏)

①今後の公共交通計画のあり方　②LRTの都市交通における活用イメージ　③LRTと他交通機関との接続形態　④環境問題　⑤バリアフリー　⑥駅周辺と関係づくりなどについて基本方針と施策体系や官民共同による支援助成体制についての概略的な整理を行う。

緑分科会
（発表：芹田　まゆみ、講評：白井　秀和）
「福井市において景観整備された4街路の評価」

福井市中心部では福井駅前シンボルロードの整備以来、ここ十年ほどの間にいくつかの街路で電線類の地中化、舗装・照明灯のグレードアップなど景観整備が行われてきた。これらの街路整備に当たっては、行政側は検討委員会や地元住民の意見を聞きながらテーマや具体的内容を検討し整備してきた。しかし、市民が行政の意図したとおりの受け止め方をしているかどうかは不分明である。

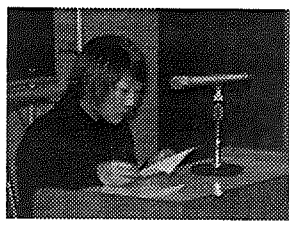
そこで当分科会では、「景観整備の内容把握」、「アンケート調査の実施」により景観整備の事後評価を行うこととする。アンケート調査は①通行者及び沿道住民からの視点②4街路相互の比較の視点から評価することを目的として実施する。アンケート調査結果などについては、SD法などにより整理分析を行い、今後整備が予定されている路線の整備計画を提案していきたいと考えている。

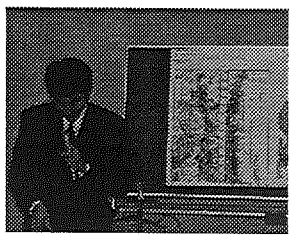
本研究では対象街路を福井市街地で景観整備された4路線とし、調査内容として、①景観整備の内容把握、②当街路の印象アンケート、③4街路の比較アンケート調査を行う。

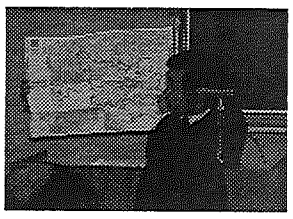
地盤分科会
（発表：野村　吉範、講評：龍崎　俊和）
「地下資源［温泉］」
当分科会では温泉の比較的多い嶺北地方を対象に地質や地盤の構造、地震や火山との関係からどのような場所に温泉がでやすいか調査し、また、県最大の温泉地である芦原温泉の歴史や地域活性化、地熱エネルギーなど温泉が有効に利用できるか調査していく。
具体的には、
①既存の温泉を構成する岩盤の種類、断層破砕帯の有無についてどのような関係があるか調査する。
②温泉と地震の関係について、福井地震断層上の温泉が少ないが、これは断層内部に温泉の賦存が元々少ないのかあるいはほかの理由によるものか、ほかの地震発生集中地帯も調査した上で温泉との関連を調べる。また、火山との関連についても、嶺北地方の形成の影響が大きい白山と関連づけて調査していく。
③県内の温泉を定量的に評価し、今後高齢化社会を迎えるに当たって我々がゆとりもって生活していくために地域にあった温泉の有効活用方策について考察する。その一つとして、昨年度検討した地球温暖化問題に絡めて、地熱発電について検討していきたい。
以上の検討からそれぞれの項目について地域づくりにおいて温泉が効果的に利用できるのか調査を深めていきたい。

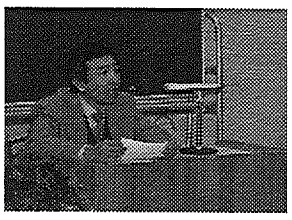
地象分科会
（発表：橋本　栄治、講評：中村　毅）
「土砂災害の歴史と防災対策のあり方」
今期地象分科会では、自然災害の中でも「土砂災害」に着目し、その歴史と原因などを整理するとともに、特に予算上全国上位に位置する本県砂防事業の実施状況や土砂災害防止に向けた土地利用・開発の規制等についても検討してみたいと考えている。
災害の発生は毎年いろいろな防災対策が進められているにもかかわらず全国的に後を絶たない。災害原因別の死者の割合でみると「崖崩れ」と「土石流・地滑り」あわせた「土砂災害」の割合は過半数を占めている。同じように福井県における土砂災害の歴史を調べてみると台風や集中豪雨が原因となった土石流や地滑り、崖崩れが多数発生し、尊い人命や、財産が失われている。
土砂災害発生の危険箇所を表した土石流危険渓流や地滑り危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所は、建設省所管だけでも全国にそれぞれ177,011箇所ある。また福井県では2,881箇所あり、中でも土石流危険渓流の割合が大きくなっている。こうした土砂災害の防止対策の方法、あるいは今後の課題として考えられるのは以下のようなことである。
①砂防事業の推進、②土砂災害危険情報の提供、③土地利用・開発行為の規制、④土砂災害対策の一元化等があげられる。
今後各種開発と追いかけごっこになって、土砂災害対策事業の効果が思うようにあがらないという問題について、さらに深く追求していきたいと考えている。

土地利用分科会
（発表：沢崎　幸夫、講評：杉森　正義）
「夜の中心市街地活性化に向けて（その1）」
現在、中心市街地の空洞化が問題とされ、その再活性化が叫ばれている。それは主として、都心商業の問題であり、様々な商業集積が郊外に分散立地していることとは裏腹の関係にある。そして議論の中心は、意識・無意識を問わず昼間の都市活動についていうことになる。
しかし都市活動は昼のみに行われているわけではない。都市活動の不可欠な構成要素に社交・飲食機能といった部分があり、これらは主として夜に行われるものである。この機能は福井市では一体どのようになっているのか。巷間でいわれているように、この部分も衰退の道をたどっているのか、どっこい頑張っているのか、夜の都市計画序論として手始めにその実態を調査しようとするものである。
まず、「夜の都市活動などというものは、元々ファジーな領域のものであると考え、これを表現するデータとして、入手しやすくオープンな職業別電話帳を根拠データとするものである。職業別電話帳の記載には相当恣意的なものがあり、厳密正確なものとはいえず、ファジーなものである。しかし全体的な傾向はおおよそ表されていると言っていいだろう。さらに、夜の都市活動の中でも立地条件や景気の変化にもっとも敏感であると考えられる「バー・スナック」を対象とする。ファジーな中でもさらにファジーなのが「バー・スナック」であり、このようなファジーな分析が成功するかどうか、隔靴掻痒に終わるかどうか、まず以下の各種の仮説を検討する。
①夜の都市機能は片町に最も集積している、②夜の都市機能も、分散傾向にあり、片町の地位も危うくなっている、③「元町」と「片町」に立地特性の違いはあるか、④巷間いわれている「元町」→「片町」の立地指向は事実か、⑤夜の都市活動の平均更新期間はどの程度か・最長と最短は・「平均寿命」は、⑥「元町」、「片町」の最近のネーミング動向はどうか。


緑の発表（芹田氏）


地盤の発表（野村氏）


地象の発表（橋本氏）


土地利用の発表（沢崎氏）

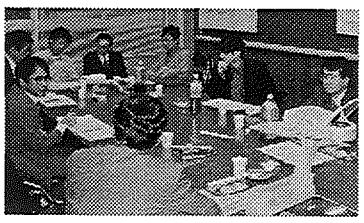
総評（福井先生）

懇親会挨拶（冨田氏）

理論研開催

第十九期は、「社会評価手法の習得」をテーマとして、テキストや具体的事例を用いた学習会を開催することとした。

【開催結果】
第1回：平成十年十二月十五日（火）
福井大学地域交通研演習室
出席者：十一名
内容：
「参加型システムズ・アプローチ」をテキストとして、その内容の読み込みを想定していたが、そもそも「社会評価手法」について何も知識がなかったことから、初回は社会評価手法の基本的考え方や具体的手法について、REF会長である本多先生に講演していただいた。
ただ、テキストの内容がかなり難解であることから、出席者で話し合った結果、2回目以降は具体的事例を用いて個々の手法を学習する形式とすることとした。
第2回：平成十一年一月二十七日（水）
福井大学地域交通研演習室
出席者：六名
内容：
社会評価手法の一つである「DEMATEL法の習得」をテーマとして開催した。今回は、福井大学大学院2年の平井勝治氏がDEMATEL法を卒業論文で用いていたことから、それを事例として、具体的な評価手順、結果、結果の活かし方等について出席者が議論した。
次回は、三月に「SD法の習得」をテーマとして開催する予定である。


理論研の様子

第3、4回幹事会開催！

今期第三回目の幹事会が十一月十一日、幹事十五名を召集し、福井土木事務所会議室で開催された。
特別な案件としては、「広域学習グループ交流会」の参加報告や、第十九期中間発表会の開催日程、場所の打ち合わせが行われ、平成十一年二月五日（金）に県民会館三〇五、三〇六会議室で開催されることが内定した。
さらに、来年の二十周年記念事業に向けて実行委員会メンバーが選出された。メンバーは橋本氏、中村氏、長谷川氏、堂本氏、野村氏、野島氏、乾氏、寺内氏、稲葉氏、酒井氏（順不同）らが選出された。初回会合を十二月十六日に行うことも同じく決定された。
各分科会幹事からは、活動状況の報告もされた。
その他の協議事項については以下のとおり。
［理論研］テキストによる学習会形式。パブリックインボルブメント（PI：住民参加）をテーマに十二月に開催予定。
第四回目の幹事会は一月十三日、福井土木事務所で開催され、特別な案件としては、第十九期中間発表会について、最終打ち合わせがなされた。
二十周年記念事業については、初回会合の報告等がなされた。
各分科会幹事からは、活動状況の報告もされた。各分科会の活動状況については、中間報告会の報告内容に代えさせていただきます。

編集後記

☆三月に入り、福井でも春一番が吹くようになりようやく春めいてきました。（とはいえ、風が吹いた日は東京出張中で福井にはいなかったのですが。）
☆今期も恒例の中間報告会が二月に行われましたが、報告を行った分科会が過去最高の七分科会となり、各分科会がぞれぞれ力の入った報告を行い、大いに盛り上がった報告会となりました。
☆さて、広報担当の方では、常時情報提供をお待ちしております。REFに関する情報なら、どんな些細な情報でもお待ちしております。（ま）
☆FAX番号は0776（28）5178槙田宛、メールアドレスはmakida@mitene.or.jpです。